

資料1 死亡事例集計結果

1) 死亡した子どもの年齢・性別

- 平成20年4月から平成21年3月までの1年間に厚生労働省が把握した虐待により死亡した子どもの事例は、心中以外的事例が64例(67人)、心中事例(心中未遂で子どものみ死亡し加害者が死亡しなかった事例を含む。以下同じ。)が43例(61人)であった。平成19年4月から平成20年3月までの1年間と比較すると、心中以外的事例では8例(6人)の増加、心中事例では9例(8人)の増加であった。

表1-1 死亡事例数及び人数

区分	平成19年1月から平成20年3月まで			平成20年4月から平成21年3月まで		
	心中以外	心中 (未遂を含む)	計	心中以外	心中 (未遂を含む)	計
例数	73	42	115	64	43	107
人数	78	64	142	67	61	128

内訳(再掲)

区分	平成19年1月から平成19年3月まで			平成19年4月から平成20年3月まで		
	心中以外	心中 (未遂を含む)	計	心中以外	心中 (未遂を含む)	計
例数	17	8	25	56	34	90
人数	17	11	28	61	53	114

(参考)

区分	平成19年1月から平成19年12月まで		
	心中以外	心中 (未遂を含む)	計
例数	57	33	90
人数	61	52	113

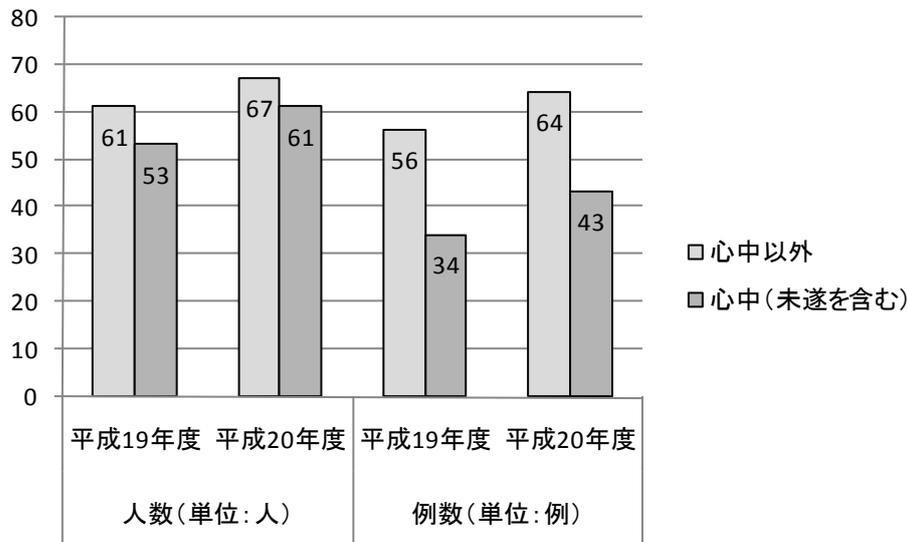
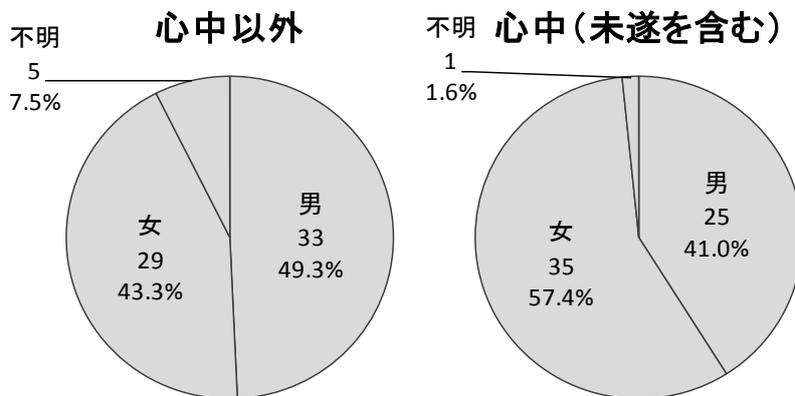


図1-1 死亡した事例数及び人数

- 性別は、心中以外の事例では、性別の明らかなものでみると、男が 33 人 (53.2%)、女が 29 人 (46.8%) で、第5次報告（平成19年1月から平成20年3月の15か月間。以下同じ。）と比較して、男の割合が 10.9 ポイント減少し、女の割合との差が小さくなった。
 心中事例では、男が 25 人 (41.7%)、女が 35 人 (58.3%) で、第5次報告と比較して女の割合が 8.3 ポイント増加し、女の割合が多かった。

表1-2 死亡した子どもの性別

区分	平成19年1月から平成20年3月まで							平成20年4月から平成21年3月まで						
	心中以外			心中(未遂を含む)			計	心中以外			心中(未遂を含む)			計
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合		人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	
男	50	64.1%	64.1%	32	50.0%	50.0%	82	33	49.3%	53.2%	25	41.0%	41.7%	58
女	28	35.9%	35.9%	32	50.0%	50.0%	60	29	43.3%	46.8%	35	57.4%	58.3%	64
小計	78	100%	100%	64	100%	100%	142	62	92.5%	100%	60	98.4%	100%	122
不明	0	0.0%		0	0.0%		0	5	7.5%		1	1.6%		6
計	78	100%		64	100%		142	67	100%		61	100%		128



平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月まで (単位 : 人)

図 1-2 死亡した子どもの性別

○ 死亡した子どもの年齢は、判明しているものとみると、心中以外の事例では、0 歳が 39 人 (59.1%)、1 歳と 2 歳が 4 人 (6.1%)、3 歳が 3 人 (4.5%) であり、0 歳が半数以上を占めていた。また、3 歳以下が 50 人 (75.8%) を占め、第 5 次報告と比較して 5.0 ポイント減少しているものの、0 歳児については 11.7 ポイント増加しており、低年齢に集中していた。

心中事例では、0 歳が 7 人 (11.7%)、1 歳が 4 人 (6.7%)、2 歳が 2 人 (3.3%)、3 歳が 5 人 (8.3%) であり、3 歳以下が 18 人 (30.0%) を占めていた。

表 1-3 死亡した子どもの年齢

年齢	平成19年1月から平成20年3月まで								平成20年4月から平成21年3月まで							
	心中以外				心中(未遂を含む)				心中以外				心中(未遂を含む)			
	人数	構成割合	累積有効割合		人数	構成割合	有効割合	累積有効割合	人数	構成割合	有効割合	累積有効割合	人数	構成割合	有効割合	累積有効割合
0歳	37	47.4%	47.4%		9	14.1%	14.3%	14.3%	39	58.2%	59.1%	59.1%	7	11.5%	11.7%	11.7%
1歳	11	14.1%	61.5%		3	4.7%	4.8%	19.0%	4	6.0%	6.1%	65.2%	4	6.6%	6.7%	18.3%
2歳	6	7.7%	69.2%		5	7.8%	7.9%	27.0%	4	6.0%	6.1%	71.2%	2	3.3%	3.3%	21.7%
3歳	9	11.5%	80.8%		5	7.8%	7.9%	34.9%	3	4.5%	4.5%	75.8%	5	8.2%	8.3%	30.0%
4歳	3	3.8%	84.6%		3	4.7%	4.8%	39.7%	8	11.9%	12.1%	87.9%	3	4.9%	5.0%	35.0%
5歳	3	3.8%	88.5%		8	12.5%	12.7%	52.4%	2	3.0%	3.0%	90.9%	5	8.2%	8.3%	43.3%
6歳	1	1.3%	89.7%		6	9.4%	9.5%	61.9%	1	1.5%	1.5%	92.4%	3	4.9%	5.0%	48.3%
7歳	2	2.6%	92.3%		5	7.8%	7.9%	69.8%	0	0.0%	0.0%	92.4%	6	9.8%	10.0%	58.3%
8歳	1	1.3%	93.6%		3	4.7%	4.8%	74.6%	0	0.0%	0.0%	92.4%	5	8.2%	8.3%	66.7%
9歳	0	0.0%	93.6%		4	6.3%	6.3%	81.0%	1	1.5%	1.5%	93.9%	3	4.9%	5.0%	71.7%
10歳	1	1.3%	94.9%		4	6.3%	6.3%	87.3%	1	1.5%	1.5%	95.5%	5	8.2%	8.3%	80.0%
11歳	1	1.3%	96.2%		2	3.1%	3.2%	90.5%	1	1.5%	1.5%	97.0%	4	6.6%	6.7%	86.7%
12歳	0	0.0%	96.2%		0	0.0%	0.0%	90.5%	1	1.5%	1.5%	98.5%	2	3.3%	3.3%	90.0%
13歳	1	1.3%	97.4%		3	4.7%	4.8%	95.2%	0	0.0%	0.0%	98.5%	3	4.9%	5.0%	95.0%
14歳	0	0.0%	97.4%		2	3.1%	3.2%	98.4%	0	0.0%	0.0%	98.5%	1	1.6%	1.7%	96.7%
15歳	0	0.0%	97.4%		0	0.0%	0.0%	98.4%	0	0.0%	0.0%	98.5%	0	0.0%	0.0%	96.7%
16歳	2	2.6%	100%		1	1.6%	1.6%	100%	1	1.5%	1.5%	100%	2	3.3%	3.3%	100%
17歳	0	0.0%			0	0.0%	0.0%		0	0.0%	0.0%		0	0.0%	0.0%	100%
小計	78	100%			63	98.4%	100%		66	98.5%	100%		60	98.4%	100%	100%
不明	0	0.0%			1	1.6%			1	1.5%			1	1.6%		
計	78	100%			64	100%			67	100%			61	100%		

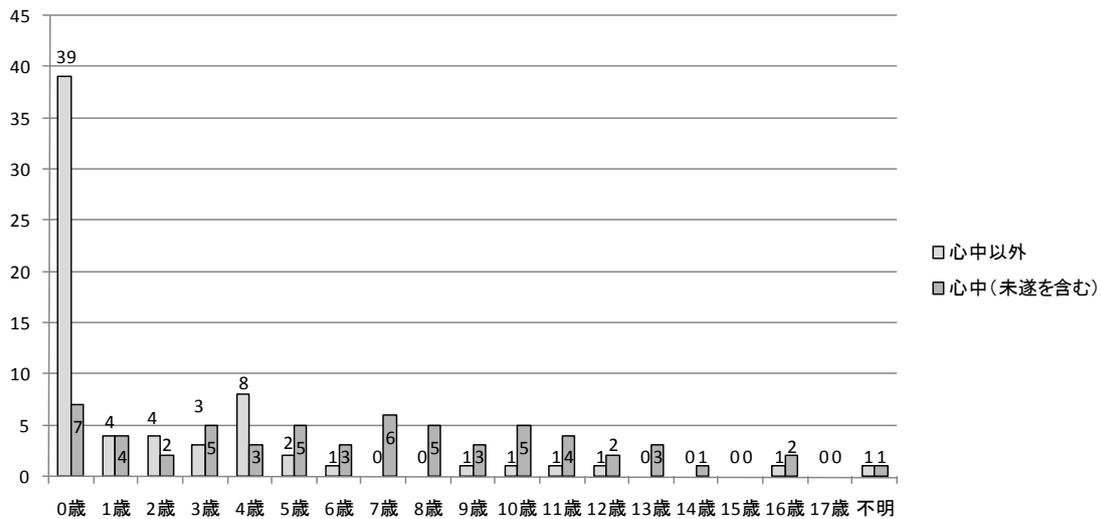


図1-3 死亡した子どもの年齢

2) 虐待を行った者の状況等

- 主な虐待の種類は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、「身体的虐待」が44人(78.6%)、「ネグレクト」が12人(21.4%)で身体的虐待が7割以上を占めており、身体的虐待が最も多い傾向は変わらなかった。また、第5次報告と比較すると「身体的虐待」の割合が増加し、「ネグレクト」の割合が減少した。

表2-1 主な虐待の種類

区分	平成19年1月から平成20年3月まで			平成20年4月から平成21年3月まで		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
身体的虐待	52	66.7%	66.7%	44	65.7%	78.6%
ネグレクト	26	33.3%	33.3%	12	17.9%	21.4%
小計	78	100%	100%	56	83.6%	100%
不明	0	0.0%	0.0%	11	16.4%	
計	78	100%	100%	67	100%	

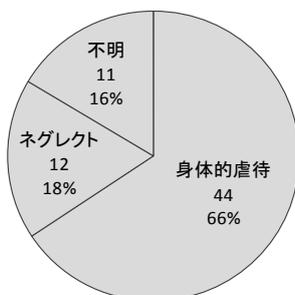


図2-1 主な虐待の種類

- 確認された虐待の種類（複数回答）は、心中以外の事例では「身体的虐待」が 44 人（65.7%）、「ネグレクト」が 16 人（23.9%）、心理的虐待が 6 人（9.0%）で、「性的虐待」は 0 人であった。

表 2-2 確認された虐待の種類（複数回答）

区分	心中以外							
	なし		確認された虐待				不明	
			主		副			
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
身体的虐待	10	14.9%	44	65.7%	0	0.0%	13	19.4%
ネグレクト	29	43.3%	12	17.9%	4	6.0%	22	32.8%
心理的虐待	32	47.8%	0	0.0%	6	9.0%	29	43.3%
性的虐待	44	65.7%	0	0.0%	0	0.0%	23	34.3%

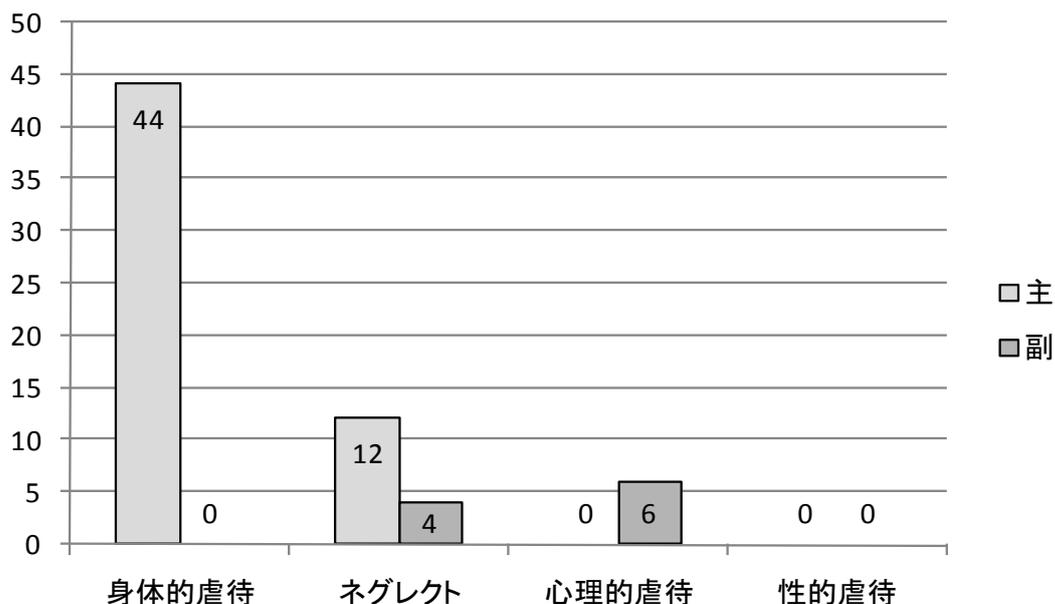


図 2-2 確認された虐待の種類

- 直接死因は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、「頭部外傷」が 14 人（26.9%）と最も多く、次いで「溺水」が 9 人（17.3%）、「頸部絞扼以外による窒息」が 7 人（13.5%）、「頸部絞扼による窒息」が 5 人（9.6%）であった。
- 心中事例では、「頸部絞扼による窒息」が 16 人（26.7%）と最も多く、次いで「中毒（火災によるものを除く）」が 13 人（21.7%）、「火災による熱傷・一酸化中毒」が 10 人（16.7%）だった。

表2-3 直接死因

区分	平成19年1月から平成20年3月まで						平成20年4月から平成21年3月まで					
	心中以外			心中(未遂を含む)			心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
頭部外傷	17	21.8%	24.3%	3	4.7%	5.2%	14	20.9%	26.9%	1	1.6%	1.7%
胸部外傷	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.7%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
腹部外傷	3	3.8%	4.3%	1	1.6%	1.7%	3	4.5%	5.8%	0	0.0%	0.0%
外傷性ショック	2	2.6%	2.9%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	4	6.6%	6.7%
頸部絞扼による窒息	8	10.3%	11.4%	13	20.3%	22.4%	5	7.5%	9.6%	16	26.2%	26.7%
頸部絞扼以外による窒息	14	17.9%	20.0%	3	4.7%	5.2%	7	10.4%	13.5%	0	0.0%	0.0%
溺水	3	3.8%	4.3%	9	14.1%	15.5%	9	13.4%	17.3%	6	9.8%	10.0%
熱傷	1	1.3%	1.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
車中放置による熱中症・脱水	2	2.6%	2.9%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
中毒(火災によるものを除く)	0	0.0%	0.0%	3	4.7%	5.2%	0	0.0%	0.0%	13	21.3%	21.7%
出血性ショック	0	0.0%	0.0%	5	7.8%	8.6%	2	3.0%	3.8%	3	4.9%	5.0%
低栄養による衰弱	5	6.4%	7.1%	0	0.0%	0.0%	1	1.5%	1.9%	0	0.0%	0.0%
凍死	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.5%	1.9%	0	0.0%	0.0%
火災による熱傷・一酸化炭素中毒	9	11.5%	12.9%	13	20.3%	22.4%	3	4.5%	5.8%	10	16.4%	16.7%
病死	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	3	4.5%	5.8%	0	0.0%	0.0%
その他	6	7.7%	8.6%	7	10.9%	12.1%	4	6.0%	7.7%	7	11.5%	11.7%
内訳	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	2	3.0%	3.8%	0	0.0%	0.0%
焼死	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.5%	1.9%	0	0.0%	0.0%
プラスチック製ゴミ箱に入れてふたをし放置	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.5%	1.9%	0	0.0%	0.0%
頭部打撲による脳障害	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.7%
轢死	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.7%	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.7%
体幹部、頸部刺創による失血	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.7%
背部刺創による失血	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.7%
全身打撲	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	2	3.3%	3.3%
飛び降り	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	2	3.3%	3.3%
高所から投げ落とす	1	1.3%	1.4%	2	3.1%	3.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
急性硬膜下血腫	1	1.3%	1.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
低酸素療法	1	1.3%	1.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
揺さぶられ症候群による頭蓋内出血	1	1.3%	1.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
低体温症	1	1.3%	1.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
トイレで出産遺棄	1	1.3%	1.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
拳銃で殺害	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.7%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
未記入	0	0.0%	0.0%	3	4.7%	5.2%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
小計	70	89.7%	100%	58	90.6%	100%	52	77.6%	100%	60	98.4%	100%
不明	8	10.3%		6	9.4%	0.1034	15	22.4%		1	1.6%	
計	78	100%		64	100%	1.1034	67	100%		61	100%	

- 主たる加害者は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、「実母」が36人(59.0%)で最も多く、次いで「実父」が10人(16.4%)、「実父母」が5人(8.2%)であった。

心中事例では、「実母」が7割を占めていた。

表2-4 主たる加害者

区分	平成19年1月から平成20年3月				平成20年4月から平成21年3月					
	心中以外		心中(未遂を含む)		心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
実母	38	48.7%	42	65.6%	36	53.7%	59.0%	40	65.6%	70.2%
実父	16	20.5%	12	18.8%	10	14.9%	16.4%	14	23.0%	24.6%
継父	2	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
養母	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	1.6%	0	0.0%	0.0%
養父	1	1.3%	1	1.6%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
母方祖母	1	1.3%	1	1.6%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
母方祖父	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	0.0%	2	3.3%	3.5%
父方祖母	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.8%
父方祖父	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	1.6%	0	0.0%	0.0%
母の交際相手	8	10.3%	0	0.0%	3	4.5%	4.9%	0	0.0%	0.0%
実父	10	12.8%	4	6.3%	5	7.5%	8.2%	0	0.0%	0.0%
養父	0	0.0%	0	0.0%	2	3.0%	3.3%	0	0.0%	0.0%
母方祖母	0	0.0%	3	4.7%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
母の交際相手	1	1.3%	0	0.0%	3	4.5%	4.9%	0	0.0%	0.0%
その他	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
小計	78	100%	64	100%	61	91.0%	100%	57	93.4%	100%
不明	0	0.0%	0	0.0%	6	9.0%		4	6.6%	
計	78	100%	64	100%	67	100%		61	100%	

- 加害の動機は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、「しつけのつもり」が10人(22.7%)と最も多く、次いで「子どもの存在の拒否・否定」が8人(11.9%)、「泣きやまないことにいらだったため」が5人(11.4%)であった。

表2-5 加害の動機

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
心中	-	-	-	61	100%	100%
しつけのつもり	10	14.9%	22.7%	-	-	-
子どもがなつかない	1	1.5%	2.3%	-	-	-
パートナーへの愛情を独占されたなど、子どもに対する嫉妬心	1	1.5%	2.3%	-	-	-
パートナーへの怒りを子どもに向ける	0	0.0%	0.0%	-	-	-
慢性の疾患や障害の苦しみから子どもを救おうという主観的意図	0	0.0%	0.0%	-	-	-
精神症状による行為(妄想などによる)	2	3.0%	4.5%	-	-	-
子どもの暴力などから身を守るため	0	0.0%	0.0%	-	-	-
MSBP(代理によるミュンヒハウゼン症候群)	3	4.5%	6.8%	-	-	-
保護を怠ったことによる死亡	4	6.0%	9.1%	-	-	-
子どもの存在の拒否・否定	8	11.9%	18.2%	-	-	-
泣きやまないことにいらだったため	5	7.5%	11.4%	-	-	-
アルコール又は薬物依存に起因した精神症状による行為	0	0.0%	0.0%	-	-	-
その他	10	14.9%	22.7%	-	-	-
小計	44	65.7%	100%	61	100%	100%
不明	23	34.3%		-	-	
計	67	100%		61	100%	

3) 死亡した子どもに関する事項

- 妊娠期・周産期の問題は、心中以外の事例では、①「望まない妊娠/計画していない妊娠」と②「妊婦健診未受診」がそれぞれ21人(31.3%)、③「母子健康手帳の未発行」が20人(29.9%)、④「若年(10代)妊娠」が15人(22.4%)であった。

表3-1 妊娠期・周産期の問題

区分	心中以外						心中(未遂を含む)					
	人数(構成割合/67人)						人数(構成割合/61人)					
	あり		なし		未記入・不明		あり		なし		未記入・不明	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
切迫流産・切迫早産	4	6.0%	18	26.9%	45	67.2%	3	4.9%	23	37.7%	35	57.4%
妊娠高血圧症候群	2	3.0%	15	22.4%	50	74.6%	0	0.0%	24	39.3%	37	60.7%
喫煙の常習	7	10.4%	12	17.9%	48	71.6%	1	1.6%	14	23.0%	46	75.4%
アルコールの常習	5	7.5%	14	20.9%	48	71.6%	0	0.0%	14	23.0%	47	77.0%
マタニティブルー	1	1.5%	14	20.9%	52	77.6%	1	1.6%	14	23.0%	46	75.4%
望まない妊娠/計画していない妊娠	21	31.3%	8	11.9%	38	56.7%	1	1.6%	15	24.6%	45	73.8%
若年(10代)妊娠	15	22.4%	34	50.7%	18	26.9%	1	1.6%	39	63.9%	21	34.4%
母子健康手帳の未発行	20	29.9%	27	40.3%	20	29.9%	0	0.0%	25	41.0%	36	59.0%
妊婦健診未受診	21	31.3%	16	23.9%	30	44.8%	0	0.0%	22	36.1%	39	63.9%
胎児虐待	0	0.0%	21	31.3%	46	68.7%	0	0.0%	18	29.5%	43	70.5%
墜落分娩	9	13.4%	22	32.8%	36	53.7%	0	0.0%	27	44.3%	34	55.7%
陣痛が微弱であった	1	1.5%	18	26.9%	48	71.6%	0	0.0%	19	31.1%	42	68.9%
帝王切開	4	6.0%	33	49.3%	30	44.8%	3	4.9%	22	36.1%	36	59.0%
低体重	9	13.4%	20	29.9%	38	56.7%	2	3.3%	25	41.0%	34	55.7%
多胎	4	6.0%	40	59.7%	23	34.3%	0	0.0%	36	59.0%	25	41.0%
新生児仮死	0	0.0%	29	43.3%	38	56.7%	1	1.6%	28	45.9%	32	52.5%
その他の疾患・障害	0	0.0%	29	43.3%	38	56.7%	0	0.0%	27	44.3%	34	55.7%
出生時の退院の遅れによる母子分離	6	9.0%	38	56.7%	23	34.3%	0	0.0%	26	42.6%	35	57.4%
NICU入院	2	3.0%	40	59.7%	25	37.3%	1	1.6%	26	42.6%	34	55.7%

- 子どもの疾患・障害等は、心中以外の事例では、「身体発育の遅れ」が4人(6.0%)だった。

心中事例では、「身体疾患」が5人(8.2%)、「身体障害」が3人(4.9%)だった。

表3-2 子どもの疾患・障害等

区分	心中以外						心中(未遂を含む)					
	人数(構成割合/67人)						人数(構成割合/61人)					
	あり		なし		未記入・不明		あり		なし		未記入・不明	
人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	
身体疾患	1	1.5%	29	43.3%	37	55.2%	5	8.2%	26	42.6%	30	49.2%
身体障害	1	1.5%	30	44.8%	36	53.7%	3	4.9%	34	55.7%	24	39.3%
知的発達の遅れ	1	1.5%	29	43.3%	37	55.2%	1	1.6%	37	60.7%	23	37.7%
身体発育の遅れ(極端な痩せ、身長が低いなど)	4	6.0%	31	46.3%	32	47.8%	1	1.6%	40	65.6%	20	32.8%

- 情緒・行動上の問題(複数回答)は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「なし」が19人(65.5%)、「指示に従わない」が6人(20.7%)、「なつかない」が4人(13.8%)だった。

表3-3 情緒・行動上の問題（複数回答）

区分	心中以外(67人)			心中(未遂を含む)(61人)			
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	
なし	19	28.4%	65.5%	25	41.0%	83.3%	
あり	10	14.9%	34.5%	5	8.2%	16.7%	
内訳(再掲)	ミルクの飲みムラ	3	4.5%	10.3%	2	3.3%	6.7%
	激しい泣き	3	4.5%	10.3%	2	3.3%	6.7%
	夜泣き	3	4.5%	10.3%	1	1.6%	3.3%
	食事の拒否	2	3.0%	6.9%	0	0.0%	0.0%
	夜尿	1	1.5%	3.4%	0	0.0%	0.0%
	多動	3	4.5%	10.3%	0	0.0%	0.0%
	衝動性	2	3.0%	6.9%	0	0.0%	0.0%
	かんしゃく	1	1.5%	3.4%	0	0.0%	0.0%
	自傷行為	1	1.5%	3.4%	0	0.0%	0.0%
	性器いじり	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	指示に従わない	6	9.0%	20.7%	0	0.0%	0.0%
	なつかない	4	6.0%	13.8%	0	0.0%	0.0%
	無表情、表情が乏しい	2	3.0%	6.9%	0	0.0%	0.0%
	固まってしまう	1	1.5%	3.4%	0	0.0%	0.0%
	盗癖	1	1.5%	3.4%	0	0.0%	0.0%
	虚言癖	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	不登校	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
その他	2	3.0%	6.9%	1	1.6%	3.3%	
小計	29	43.3%	100%	30	49.2%	100%	
不明	38	56.7%		31	50.8%		
計	67	100%		61	100%		

- 乳幼児健康診査の状況（複数回答）は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「3～4か月児健診」で7人（26.9%）、「1歳6か月児健診」で8人（47.1%）、「3歳児健診」で3人（23.1%）がそれぞれ未受診であると確認され、いずれの健診においても、第5次報告と比較して、未受診者の割合が増加した。
 心中事例では、「3～4か月児健診」で2人（6.9%）、「1歳6か月児健診」で4人（16.0%）、「3歳児健診」で4人（21.1%）がそれぞれ未受診であると確認された。
- 予防接種の状況（複数回答）は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「BCG・ツベルクリン」で32人（68.1%）、「ポリオ」で21人（65.6%）、「三種混合」で24人（77.4%）、「麻疹」で20人（76.9%）、「風疹」で20人（80.0%）がそれぞれ未接種だった。
 心中事例では、「BCG・ツベルクリン」で3人（8.8%）、「ポリオ」で4人（12.1%）、「三種混合」で6人（18.2%）、「麻疹」で6人（18.2%）、「風疹」で7人（21.9%）がそれぞれ未接種だった。

表3-4 乳幼児健診および予防接種の状況（複数回答）

区分	心中以外 人数(有効割合/67人)						心中(未遂を含む) 人数(有効割合/61人)					
	受診済み		未受診		年齢的に非該当	不明	受診済み		未受診		年齢的に非該当	不明
	人数	有効割合	人数	有効割合			人数	有効割合	人数	有効割合		
3~4か月児健診	19	73.1%	7	26.9%	28	13	27	93.1%	2	6.9%	0	32
1歳6か月児健診	9	52.9%	8	47.1%	40	10	21	84.0%	4	16.0%	7	29
3歳児健診	10	76.9%	3	23.1%	47	7	15	78.9%	4	21.1%	12	30
BCG・ツベルクリン	15	31.9%	32	68.1%	0	20	31	91.2%	3	8.8%	0	27
ポリオ	11	34.4%	21	65.6%	21	14	29	87.9%	4	12.1%	0	28
三種混合	7	22.6%	24	77.4%	21	15	27	81.8%	6	18.2%	0	28
麻疹	6	23.1%	20	76.9%	25	16	25	80.6%	6	19.4%	1	29
風疹	5	20.0%	20	80.0%	25	17	25	78.1%	7	21.9%	1	28

- 養育機関への所属等は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「なし」が50人（82.0%）、「保育所」が3人（4.9%）、「幼稚園」が2人（3.3%）、「小学校」が5人（8.2%）、「中学校」が0人、「高等学校」が1人（1.6%）であった。

心中事例では、「なし」が16人（29.6%）、「保育所」が7人（13.0%）、「幼稚園」が5人（9.3%）、「小学校」が23人（42.6%）、「中学校」が3人（5.6%）、「高等学校」が0人であった。

表3-5 養育機関への所属等

区分	心中以外(67人)			心中(未遂を含む)(61人)			
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	
なし	50	74.6%	82.0%	16	26.2%	29.6%	
あり	11	16.4%	18.0%	38	62.3%	70.4%	
内訳(再掲)	保育所	3	4.5%	4.9%	7	11.5%	13.0%
	幼稚園	2	3.0%	3.3%	5	8.2%	9.3%
	小学校	5	7.5%	8.2%	23	37.7%	42.6%
	中学校	0	0.0%	0.0%	3	4.9%	5.6%
	高等学校	1	1.5%	1.6%	0	0.0%	0.0%
小計	61	91.0%	100%	54	88.5%	100%	
不明	6	9.0%		7	11.5%		
計	67	100%		61	100%		

4) 養育環境などについて

- 養育者の状況（家族形態）は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「実父母」が26例（44.8%）と最も多く、次いで「一人親（未婚）」が11例（19.0%）、「内縁関係」が9例（15.5%）であった。

心中事例では、「実父母」が22例（56.4%）と最も多く、次いで「一人親（離婚）」が13例（33.3%）であった。

表4-1 養育者の状況（家族形態）

区分	心中以外(64例)			心中(未遂を含む)(43例)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
実父母	26	40.6%	44.8%	22	51.2%	56.4%
一人親(離婚)	5	7.8%	8.6%	13	30.2%	33.3%
一人親(未婚)	11	17.2%	19.0%	3	7.0%	7.7%
一人親(死別)	1	1.6%	1.7%	0	0.0%	0.0%
連れ子の再婚	2	3.1%	3.4%	0	0.0%	0.0%
内縁関係	9	14.1%	15.5%	0	0.0%	0.0%
養父母	1	1.6%	1.7%	0	0.0%	0.0%
その他	3	4.7%	5.2%	1	2.3%	2.6%
小計	58	90.6%	100%	39	90.6%	100%
不明	6	9.4%		4	9.3%	
計	64	100%		43	100%	

- 祖父母の同居の状況は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「なし」が 37 例（63.8%）と最も多く、次いで「母方祖父母同居」が 10 例（17.2%）であった。

心中事例では、「なし」が 29 例（76.3%）と最も多く、次いで「母方祖父母同居」が 4 例（10.5%）であった。

表4-2-1 祖父母の同居状況

		心中以外(64例)			心中(未遂を含む)(43例)		
		例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
なし		37	57.8%	63.8%	29	67.4%	76.3%
あり		21	32.8%	36.2%	9	20.9%	23.7%
内訳 (再掲)	母方祖母同居	3	4.7%	5.2%	4	9.3%	10.5%
	母方祖父同居	1	1.6%	1.7%	1	2.3%	2.6%
	母方祖父母同居	10	15.6%	17.2%	1	2.3%	2.6%
	父方祖母同居	4	6.3%	6.9%	0	0.0%	0.0%
	父方祖父同居	2	3.1%	3.4%	0	0.0%	0.0%
	父方祖父母同居	1	1.6%	1.7%	3	7.0%	7.9%
小計		58	90.6%	100%	38	88.4%	100%
不明		6	9.4%		5	11.6%	
計		64	100%		43	100%	

- 実父母、祖父母以外の者の同居状況は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「なし」が 34 例（65.4%）で最も多く、次いで「母の交際相手」が 7 例（13.5%）であった。

心中事例では、「なし」が 32 例（91.4%）であった。

表4-2-2 実父母、祖父母以外の者の同居状況

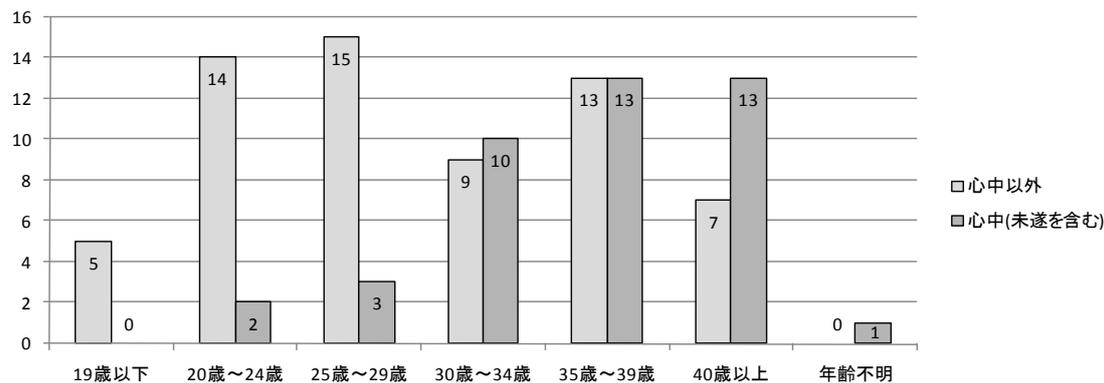
		心中以外(64例)			心中(未遂を含む)(43例)		
		例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
なし		34	53.1%	65.4%	32	74.4%	91.4%
あり		18	28.1%	34.6%	3	7.0%	8.6%
内訳 (再掲)	母の交際相手	7	10.9%	13.5%	0	0.0%	0.0%
	父の交際相手	1	1.6%	1.9%	0	0.0%	0.0%
	その他	10	15.6%	19.2%	3	7.0%	8.6%
小計		52	81.3%	100%	35	81.4%	100%
不明		12	18.8%		8	18.6%	
計		64	100%		43	100%	

- 本児死亡時の実母・実父の年齢は、判明したものとみると、心中以外の事例では、実母の年齢階級は、「25歳～29歳」が15例(23.8%)と最も多く、次いで「20歳～24歳」が14例(22.2%)、「35歳～39歳」が13例(20.6%)であった。実父の年齢階級は、「20歳～24歳」と「30歳～34歳」がそれぞれ7例(13.5%)と最も多く、次いで「25歳～29歳」が5例(9.6%)であった。

心中事例では、実母の年齢階級は、「35歳～39歳」と「40歳以上」がそれぞれ13例(31.0%)と最も多く、次いで「30歳～34歳」が10例(23.8%)であった。実父の年齢階級は「35歳～39歳」が15例(39.5%)で最も多く、次いで「40歳以上」が12例(31.6%)であった。

表4-3 本児死亡時の実母・実父の年齢

区分	心中以外(64例)						心中(未遂を含む)(43例)						
	実母			実父			実母			実父			
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	
いない	0	0.0%	0.0%	18	28.1%	34.6%	0	0.0%	0.0%	4	9.3%	10.5%	
いる	63	98.4%	100.0%	34	53.1%	65.4%	42	97.7%	100.0%	34	79.1%	89.5%	
内訳 (再掲)	19歳以下	5	7.8%	7.9%	1	1.6%	1.9%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	20歳～24歳	14	21.9%	22.2%	7	10.9%	13.5%	2	4.7%	4.8%	1	2.3%	2.6%
	25歳～29歳	15	23.4%	23.8%	5	7.8%	9.6%	3	7.0%	7.1%	3	7.0%	7.9%
	30歳～34歳	9	14.1%	14.3%	7	10.9%	13.5%	10	23.3%	23.8%	3	7.0%	7.9%
	35歳～39歳	13	20.3%	20.6%	2	3.1%	3.8%	13	30.2%	31.0%	15	34.9%	39.5%
	40歳以上	7	10.9%	11.1%	11	17.2%	21.2%	13	30.2%	31.0%	12	27.9%	31.6%
年齢不明	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	1.9%	1	2.3%	2.4%	0	0.0%	0.0%	
小計	63	98.4%	100%	52	81.3%	100%	42	97.7%	100%	38	88.4%	100%	
不明	1	1.6%		12	18.8%		1	2.3%		5	11.6%		
計	64	100%		64	100%		43	100%		43	100%		



※実母の有無不明例を除く（単位：例）

図4-3 本児死亡時の実母の年齢

- 家計を支えている主たる者は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「実父」が19例（38.8%）、「実母」が13例（26.5%）であった。
 心中事例では、「実父」が23例（69.7%）でほぼ7割を占めていた。「実母」は8例（24.2%）であった。

表4-4 家計を支えている主たる者

区分	心中以外(64例)			心中(未遂を含む)(43例)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
実母	13	20.3%	26.5%	8	18.6%	24.2%
実父	19	29.7%	38.8%	23	53.5%	69.7%
継父	2	3.1%	4.1%	0	0.0%	0.0%
養父	3	4.7%	6.1%	0	0.0%	0.0%
母方祖母	2	3.1%	4.1%	0	0.0%	0.0%
母方祖父	6	9.4%	12.2%	2	4.7%	6.1%
母の交際相手	3	4.7%	6.1%	0	0.0%	0.0%
父の交際相手	1	1.6%	2.0%	0	0.0%	0.0%
小計	49	76.6%	100%	33	76.7%	100%
不明	15	23.4%		10	23.3%	
計	64	100%		43	100%	

- 住宅の状況は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「集合住宅（賃貸）」が26例（52.0%）で最も多く、次いで「一戸建て（持ち家）」が16例（32.0%）であった。
 心中事例では、「一戸建て（持ち家）」が14例（42.4%）、「集合住宅（賃貸）」が13例（39.4%）であった。

表4-5 住宅の状況

区分	心中以外(64例)			心中(未遂を含む)(43例)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
一戸建て(持ち家)	16	25.0%	32.0%	14	32.6%	42.4%
一戸建て(賃貸)	4	6.3%	8.0%	0	0.0%	0.0%
集合住宅(所有)	1	1.6%	2.0%	1	2.3%	3.0%
集合住宅(賃貸)	26	40.6%	52.0%	13	30.2%	39.4%
公営住宅	3	4.7%	6.0%	4	9.3%	12.1%
他人の家に同居	0	0.0%	0.0%	1	2.3%	3.0%
小計	50	78.1%	100%	33	76.7%	100%
不明	14	21.9%		10	23.3%	
計	64	100%		43	100%	

- 家族の経済状況は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「市町村民税非課税世帯」が7例(35.0%)、「市町村民税課税世帯(年収500万円未満)」が6例(30.0%)、「年収500万円以上」が4例(20.0%)であった。
- 心中事例では、「市町村民税課税世帯(年収500万円未満)」が8例(42.1%)、「年収500万円以上」が5例(26.3%)であった。

表4-6 家族の経済状況

区分	心中以外(64例)			心中(未遂を含む)(43例)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
生活保護世帯	2	3.1%	10.0%	2	4.7%	10.5%
市町村民税非課税世帯	7	10.9%	35.0%	3	7.0%	15.8%
市町村民税課税世帯 (均等割のみ課税)	1	1.6%	5.0%	1	2.3%	5.3%
市町村民税課税世帯 (年収500万円未満)	6	9.4%	30.0%	8	18.6%	42.1%
年収500万円以上	4	6.3%	20.0%	5	11.6%	26.3%
小計	20	31.3%	100%	19	44.2%	100%
不明	44	68.8%		24	55.8%	
計	64	100%		43	100%	

- 本児死亡時の実母・実父の就業状況は、判明したものとみると、心中以外の事例では、実母の就業状況は、「無職」が25例(58.1%)、「パート」が13例(30.2%)であった。
- 実父の就業状況は、「フルタイム」が18例(78.3%)であった。
- 心中事例では、実母の就業状況は、「無職」が19例(63.3%)、「パート」が7例(16.7%)であった。実父の就業状況は、「フルタイム」が21例(87.5%)であった。

表 4-7 本児死亡時の実母・実父の就業状況

区分	心中以外						心中(未遂を含む)					
	実母(63例)			実父(34例)			実母(42例)			実父(34例)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
フルタイム	3	4.8%	7.0%	18	52.9%	78.3%	2	4.8%	6.7%	21	61.8%	87.5%
パート	13	20.6%	30.2%	1	2.9%	4.3%	7	16.7%	23.3%	0	0.0%	0.0%
家事手伝い	2	3.2%	4.7%	-	-	-	2	4.8%	6.7%	-	-	-
無職	25	39.7%	58.1%	4	11.8%	17.4%	19	45.2%	63.3%	3	8.8%	12.5%
小計	43	68.3%	100%	23	67.6%	100%	30	71.4%	100%	24	70.6%	100%
不明	20	31.7%		11	32.4%		12	28.6%		10	29.4%	
計	63	100%		34	100%		42	100%		34	100%	

- 死亡した子どもが出生してからの転居回数は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「なし」が27例(55.1%)で半数以上を占め、次いで「1回」が9例(18.4%)であった。

心中事例では、「なし」が14例(53.8%)で、「1回」が12例(46.2%)であった。

表 4-8 死亡した子どもが出生してからの転居回数

区分	心中以外(64例)			心中(未遂を含む)(43例)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
なし	27	42.2%	55.1%	14	32.6%	53.8%
1回	9	14.1%	18.4%	12	27.9%	46.2%
2回	4	6.3%	8.2%	0	0.0%	0.0%
3回	5	7.8%	10.2%	0	0.0%	0.0%
4回	2	3.1%	4.1%	0	0.0%	0.0%
5回以上	2	3.1%	4.1%	0	0.0%	0.0%
小計	49	76.6%	100%	26	60.5%	100%
不明	15	23.4%		17	39.5%	
計	64	100%		43	100%	

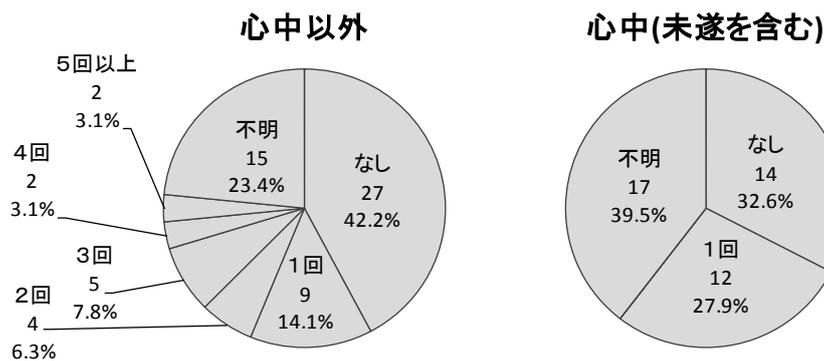


図 4-8 死亡した子どもが出生してからの転居回数

- 地域社会との接触は、判明したものとみると、心中以外の事例では、「ほとんどない」が19例(48.7%)、「ふつう」が13例(33.3%)、「乏しい」が7例(17.9%)であった。心中事例では、「ふつう」が13例(68.4%)であった。

表 4-9 地域社会との接触

区分	心中以外(64例)			心中(未遂を含む)(43例)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
ほとんどない	19	29.7%	48.7%	3	7.0%	15.8%
乏しい	7	10.9%	17.9%	2	4.7%	10.5%
ふつう	13	20.3%	33.3%	13	30.2%	68.4%
活発	0	0.0%	0.0%	1	2.3%	5.3%
小計	39	60.9%	100%	19	44.2%	100%
不明	25	39.1%		24	55.8%	
計	64	100%		43	100%	

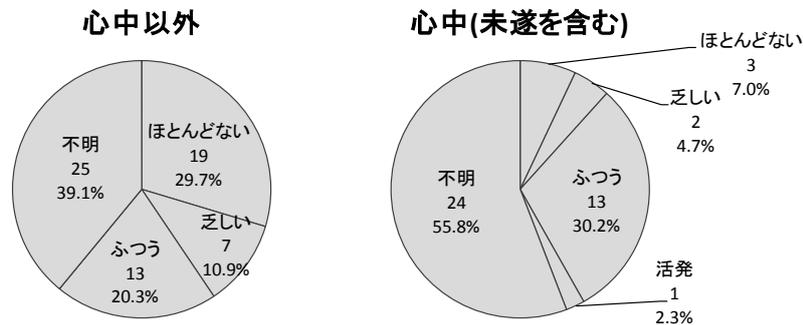


図 4-9 地域社会との接触

○ 養育を支援してくれた人（複数回答）は、心中以外の事例では、実母の場合、「親」が 19 例（30.2%）と最も多く、次いで「配偶者」が 16 例（25.4%）、「なし」が 13 例（20.6%）であった。また、実父の場合、「配偶者」が 13 例（38.2%）、「親」と「配偶者の親」がそれぞれ 8 例（23.5%）であった。

心中事例では、実母の場合、「親」が 12 例（28.6%）、「配偶者」が 9 例（21.4%）であった。また、実父の場合、「親」が 5 例（14.7%）、「配偶者」と「配偶者の親」、「なし」がそれぞれ 4 例（11.8%）であった。

表 4-10 養育を支援してくれた人（複数回答）

区分		心中以外				心中(未遂を含む)			
		実母(63例)		実父(34例)		実母(42例)		実父(34例)	
		例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合
なし		13	20.6%	6	17.6%	2	4.8%	4	11.8%
あり		27	42.9%	14	41.2%	16	38.1%	7	20.6%
内訳 (再掲) (複数回答)	配偶者	16	25.4%	13	38.2%	9	21.4%	4	11.8%
	親	19	30.2%	8	23.5%	12	28.6%	5	14.7%
	配偶者の親	10	15.9%	8	23.5%	5	11.9%	4	11.8%
	虐待者のきょうだい	1	1.6%	0	0.0%	4	9.5%	1	2.9%
	配偶者のきょうだい	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	近所の人	0	0.0%	0	0.0%	2	4.8%	0	0.0%
	職場の友人・知人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%
	保育所などの職員	5	7.9%	0	0.0%	4	9.5%	2	5.9%
	行政の相談担当者	5	7.9%	0	0.0%	4	9.5%	1	2.9%
	職場以外の友人 親類	1 4	1.6% 6.3%	0 3	0.0% 8.8%	0 4	0.0% 9.5%	0 1	0.0% 2.9%
不明		23	36.5%	14	41.2%	24	57.1%	23	67.6%

- 子育て支援事業の利用（複数回答）は、心中以外の事例では、「なし」が40例（62.5%）と最も多く、次いで「保育所入所」が5例（7.8%）であった。
 心中事例では、「なし」が18例（41.9%）、「保育所入所」が8例（18.6%）であった。

表4-1-1 子育て支援事業の利用（複数回答）

区分		心中以外(64例)		心中(未遂を含む)(43例)	
		例数	構成割合	例数	構成割合
なし		40	62.5%	18	41.9%
あり		6	9.4%	11	25.6%
内訳(再掲)	つどいの広場事業	0	0.0%	3	7.0%
	地域子育て支援センター事業	0	0.0%	2	4.7%
	養育支援訪問事業 (育児支援家庭訪問事業)	1	1.6%	2	4.7%
	一時保育事業	0	0.0%	0	0.0%
	訪問型一時保育事業	0	0.0%	0	0.0%
	訪問型一時保育事業 (乳幼児健康支援一時預かり事業)	0	0.0%	0	0.0%
	特定保育事業	0	0.0%	0	0.0%
	ファミリー・サポートセンター事業	0	0.0%	0	0.0%
	病後児保育	0	0.0%	0	0.0%
	ショートステイ事業	0	0.0%	0	0.0%
	トワイライトショートステイ事業	0	0.0%	0	0.0%
	放課後児童健全育成事業	1	1.6%	0	0.0%
	保育所入所	5	7.8%	8	18.6%
不明		18	28.1%	14	32.6%

- 養育者の心理的・精神的問題等（複数回答）は、心中以外の事例では、実母の場合、「育児不安」が16例（25.4%）と最も多く、次いで「養育能力の低さ」が10例（15.9%）、「衝動性」が8例（12.7%）、「怒りのコントロール不全」が7例（11.1%）であった。
 また、実父の場合は、「攻撃性」が7例（20.6%）と最も多く、次いで「衝動性」と「怒りのコントロール不全」がそれぞれ6例（17.6%）、「感情の起伏が激しい」と「養育能力の低さ」がそれぞれ5例（14.7%）であった。
 心中事例では、実母の場合、「育児不安」が12例（28.6%）、「うつ状態」が11例（26.2%）、「精神疾患（医師の診断によるもの）」が8例（19.0%）であった。

表4-12 養育者の心理的・精神的問題等

i. 心中以外（複数回答）

区分	実母 例数(構成割合/63例)						実父 例数(構成割合/34例)					
	あり		なし		不明		あり		なし		不明	
	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合
育児不安	16	25.4%	12	19.0%	35	55.6%	2	5.9%	9	26.5%	23	67.6%
マタニティーブルー	1	1.6%	15	23.8%	47	74.6%						
産後うつ	2	3.2%	17	27.0%	44	69.8%						
知的障害	2	3.2%	38	60.3%	23	36.5%	0	0.0%	21	61.8%	13	38.2%
精神疾患 (医師の診断によるもの)	2	3.2%	29	46.0%	32	50.8%	1	2.9%	18	52.9%	15	44.1%
身体障害	2	3.2%	40	63.5%	21	33.3%	0	0.0%	23	67.6%	11	32.4%
その他の障害	0	0.0%	31	49.2%	32	50.8%	0	0.0%	18	52.9%	16	47.1%
アルコール依存	5	7.9%	27	42.9%	31	49.2%	0	0.0%	14	41.2%	20	58.8%
薬物依存	0	0.0%	28	44.4%	35	55.6%	0	0.0%	14	41.2%	20	58.8%
衝動性	8	12.7%	17	27.0%	38	60.3%	6	17.6%	8	23.5%	20	58.8%
攻撃性	6	9.5%	20	31.7%	37	58.7%	7	20.6%	8	23.5%	19	55.9%
怒りのコントロール不全	7	11.1%	20	31.7%	36	57.1%	6	17.6%	9	26.5%	19	55.9%
うつ状態	3	4.8%	20	31.7%	40	63.5%	1	2.9%	10	29.4%	23	67.6%
躁状態	0	0.0%	23	36.5%	40	63.5%	0	0.0%	10	29.4%	24	70.6%
感情の起伏が激しい	5	7.9%	20	31.7%	38	60.3%	5	14.7%	5	14.7%	24	70.6%
高い依存性	2	3.2%	18	28.6%	43	68.3%	0	0.0%	11	32.4%	23	67.6%
幻覚	0	0.0%	22	34.9%	41	65.1%	0	0.0%	12	35.3%	22	64.7%
妄想	1	1.6%	21	33.3%	41	65.1%	0	0.0%	12	35.3%	22	64.7%
DVを受けている	6	9.5%	22	34.9%	35	55.6%	0	0.0%	18	52.9%	16	47.1%
DVを行っている	0	0.0%	29	46.0%	34	54.0%	3	8.8%	14	41.2%	17	50.0%
自殺未遂の既往	1	1.6%	24	38.1%	38	60.3%	0	0.0%	14	41.2%	20	58.8%
養育能力の低さ	10	15.9%	18	28.6%	35	55.6%	5	14.7%	10	29.4%	19	55.9%

ii. 心中（未遂を含む）（複数回答）

区分	実母 例数(構成割合/42例)						実父 例数(構成割合/34例)					
	あり		なし		不明		あり		なし		不明	
	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合
育児不安	12	28.6%	6	14.3%	24	57.1%	2	5.9%	5	14.7%	27	79.4%
マタニティーブルー	1	2.4%	11	26.2%	30	71.4%						
産後うつ	1	2.4%	14	33.3%	27	64.3%						
知的障害	1	2.4%	25	59.5%	16	38.1%	0	0.0%	17	50.0%	17	50.0%
精神疾患 (医師の診断によるもの)	8	19.0%	14	33.3%	20	47.6%	0	0.0%	14	41.2%	20	58.8%
身体障害	0	0.0%	25	59.5%	17	40.5%	0	0.0%	18	52.9%	16	47.1%
その他の障害	2	4.8%	14	33.3%	26	61.9%	0	0.0%	12	35.3%	22	64.7%
アルコール依存	0	0.0%	15	35.7%	27	64.3%	0	0.0%	9	26.5%	25	73.5%
薬物依存	0	0.0%	15	35.7%	27	64.3%	0	0.0%	9	26.5%	25	73.5%
衝動性	2	4.8%	10	23.8%	30	71.4%	0	0.0%	6	17.6%	28	82.4%
攻撃性	2	4.8%	12	28.6%	28	66.7%	0	0.0%	8	23.5%	26	76.5%
怒りのコントロール不全	1	2.4%	9	21.4%	32	76.2%	0	0.0%	8	23.5%	26	76.5%
うつ状態	11	26.2%	5	11.9%	26	61.9%	1	2.9%	7	20.6%	26	76.5%
躁状態	1	2.4%	11	26.2%	30	71.4%	0	0.0%	8	23.5%	26	76.5%
感情の起伏が激しい	1	2.4%	9	21.4%	32	76.2%	0	0.0%	8	23.5%	26	76.5%
高い依存性	1	2.4%	12	28.6%	29	69.0%	0	0.0%	8	23.5%	26	76.5%
幻覚	0	0.0%	14	33.3%	28	66.7%	0	0.0%	7	20.6%	27	79.4%
妄想	1	2.4%	13	31.0%	28	66.7%	0	0.0%	7	20.6%	27	79.4%
DVを受けている	0	0.0%	12	28.6%	30	71.4%	0	0.0%	11	32.4%	23	67.6%
DVを行っている	0	0.0%	13	31.0%	29	69.0%	0	0.0%	9	26.5%	25	73.5%
自殺未遂の既往	5	11.9%	7	16.7%	30	71.4%	0	0.0%	7	20.6%	27	79.4%
養育能力の低さ	4	9.5%	17	40.5%	21	50.0%	0	0.0%	10	29.4%	24	70.6%

5) 関係機関の対応について

- 児童相談所及び関係の関与については、心中以外の事例では、「関係機関との接点があったが、家庭への支援の必要はないと判断していた事例」が22例(34.4%)と最も多く、「関係機関と全く接点を持ちえなかった事例」が14例(21.9%)であった。

心中事例では、「関係機関との接点があったが、家庭への支援の必要はないと判断していた事例」が21例(48.8%)と最も多く、「関係機関と全く接点を持ちえなかった事例」が8例(18.6%)であった。

表5-1 児童相談所及び関係機関の関与について

区分	平成19年1月から平成20年3月まで				平成20年4月から平成21年3月まで			
	心中以外		心中(未遂含む)		心中以外		心中(未遂含む)	
	構成割合(73例)		構成割合(42例)		構成割合(64例)		構成割合(43例)	
	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合
児童相談所が関わっていた事例 (虐待以外の養護相談などで関わっていた事例を含む)	15	20.5%	2	4.8%	7	10.9%	2	4.7%
関係機関が虐待やその疑いを認識していたが、児童相談所が関わっていなかった事例	6	8.2%	0	0.0%	6	9.4%	1	2.3%
関係機関との接点はあったが、家庭への支援の必要はないと判断していた事例	22	30.1%	21	50.0%	22	34.4%	21	48.8%
関係機関と全く接点を持ちえなかった事例	13	17.8%	4	9.5%	14	21.9%	8	18.6%
不明	17	23.3%	15	35.7%	15	23.4%	11	25.6%

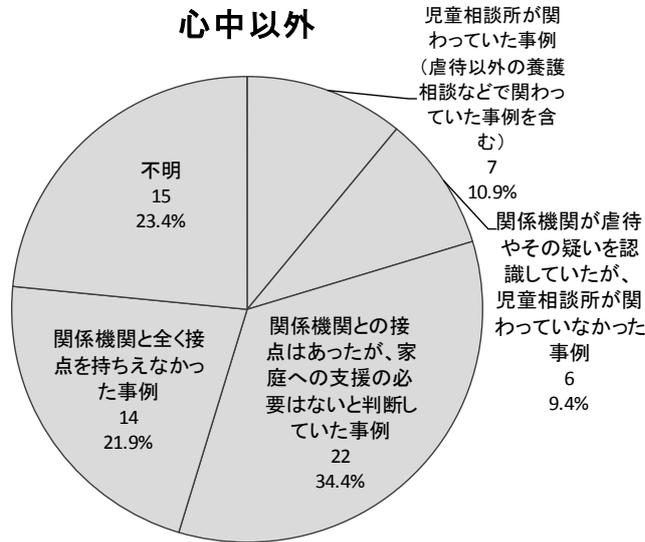


図5-1 児童相談所及び関係機関の関与について (心中以外的事例のみ)

- 虐待通告の有無は、判明しているものでみると、心中以外的事例では、「あり」は7例(11.1%であり、うち通告先が「児童相談所」が5例(7.9%)であった。また、「なし」は56例(88.9%)であった。

心中事例では、「あり」は2例(4.9%)、「なし」が39例(95.1%)であった。

表5-2 虐待通告の有無

区分	心中以外			心中(未遂を含む)			
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	
なし	56	87.5%	88.9%	39	90.7%	95.1%	
あり	7	10.9%	11.1%	2	4.7%	4.9%	
内訳(再掲)	児童相談所	5	7.8%	7.9%	1	2.3%	2.4%
	市町村	1	1.6%	1.6%	1	2.3%	2.4%
	福祉事務所	1	1.6%	1.6%	0	0.0%	0.0%
小計	63	98.4%	100%	41	95.3%	100%	
不明	1	1.6%		2	4.7%		
計	64	100%		43	100%		

- 児童相談所の関与の有無は、心中以外の事例では、「なし」が56例（87.5%）、「あり」が7例（10.9%）であった。

心中事例では、「なし」が37例（86.0%）、「あり」が2例（4.7%）であった。

表5-3 児童相談所の関与の有無

区分	心中以外		心中(未遂含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
あり	7	10.9%	2	4.7%
なし	56	87.5%	37	86.0%
不明	1	1.6%	4	9.3%
計	64	100%	43	100%

- 児童相談所の虐待についての認識は、心中以外の事例では、児童相談所の関与があった7事例のうち、「虐待の認識があり、対応していた」事例は2例（28.6%）、「虐待の可能性は認識していたが、確定していなかった」事例は4例（57.1%）、「虐待の認識はなかった」事例は1例（14.3%）であった。

心中事例では、児童相談所の関与があった2例とも「虐待の認識はなかった」事例であった。

表5-4 児童相談所の虐待についての認識

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
虐待の認識があり、対応していた	2	28.6%	0	0.0%
虐待の可能性は認識していたが、確定していなかった	4	57.1%	0	0.0%
虐待の認識はなかった	1	14.3%	2	100%
計	7	100%	2	100%

- 児童相談所におけるリスク判定の定期的な見直しは、心中以外の事例では、児童相談所の関与があった7例のすべてにおいて、行われていなかった。

心中事例でも、児童相談所の関与があった2例のすべてにおいて、行われていなかった。

表5-5 児童相談所におけるリスク判定の定期的な見直し

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
行った	0	0.0%	0	0.0%
行わなかった	7	100%	2	100%
計	7	100%	2	100%

- 児童相談所と子どもとの接触は、心中以外の事例では、児童相談所の関与があった7例のうち、「あり」が4例（57.1%）であり、「なし」が3例（42.9%）であった。

心中事例では、児童相談所の関与があった2例のうち、「あり」と「なし」がそれぞれ1例ずつであった。

表5-6 児童相談所と子どもとの接触

区分		心中以外		心中(未遂を含む)	
		例数	構成割合	例数	構成割合
なし		3	42.9%	1	50.0%
あり		4	57.1%	1	50.0%
内訳(再掲)	初回面接時のみ	1	14.3%	1	50.0%
	週1回程度	1	14.3%	0	0.0%
	1か月に1回程度	1	14.3%	0	0.0%
	その他	1	14.3%	0	0.0%
計		7	100%	2	100%

- 児童相談所による最終安全確認の時期は、心中以外の事例では、児童相談所の関与があった7例のうち、「死亡前1週間～1か月未満」が4例（57.1%）、「死亡前1週間未満」と「死亡前1か月～3か月未満」がそれぞれ1例（14.3%）であった。

心中事例では、児童相談所の関与があった2例のうち、「死亡前3か月～半年未満」と「死亡前半年以上」がそれぞれ1例ずつであった。

表5-7 児童相談所による最終安全確認の時期

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
死亡前1週間未満	1	14.3%	0	0.0%
死亡前1週間～1か月未満	4	57.1%	0	0.0%
死亡前1か月～3か月未満	1	14.3%	0	0.0%
死亡前3か月～半年未満	0	0.0%	1	50.0%
死亡前半年以上	1	14.3%	1	50.0%
計	7	100%	2	100%

- 児童相談所とその他の関係機関との連携は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、「なし」が37例（64.9%）、「あり」が20例（35.1%）であり、連携のあった20例のうち、連携が「よく取れていた」は8例、「まあまあ取れていた」が7例、「あまり取れていなかった」が5例であった。

心中事例では、「なし」が35例（89.7%）、「あり」が4例（10.3%）であり、連携のあった4例のうち、連携が「よく取れていた」は3例、「まあまあ取れていた」は1例であった。

表5-8 児童相談所とその他の関係機関との連携

区分	心中以外			心中(未遂を含む)			
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	
なし	37	57.8%	64.9%	35	81.4%	89.7%	
あり	20	31.3%	35.1%	4	6.3%	10.3%	
内訳 (再掲)	よく取れていた	8	12.5%	14.0%	3	7.0%	7.7%
	まあまあ取れていた	7	10.9%	12.3%	1	2.3%	2.6%
	あまり取れていなかった	5	7.8%	8.8%	0	0.0%	0.0%
	ほとんど取れていなかった	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
小計	57	89.1%	100%	39	90.7%	100%	
不明	7	10.9%		4	9.3%		
計	64	100%		43	100%		

- 市町村の関与の有無は、判明しているものと、心中以外の事例では「あり」が3例(4.7%)、心中事例では「あり」が1例(2.5%)であった。

表5-9 市町村の関与の有無

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
あり	3	4.7%	4.8%	1	2.3%	2.5%
なし	60	93.8%	95.2%	39	90.7%	97.5%
小計	63	98.4%	100%	40	93.0%	100%
不明	1	1.6%		3	7.0%	
計	64	100%		43	100%	

- 施設入所及び措置解除に関連した死亡事例の子ども事例は、心中以外の事例で1例であり、子どもの年齢は5歳であった。
- 児童相談所以外の関係機関の関与は、心中以外の事例では、虐待の認識の有無に関わらず関与状況を見ると、「医療機関」が23例(36.0%)と最も多く、次いで「市町村保健センター」が15例(23.4%)、「養育機関・教育機関」が11例(17.2%)であった。
 心中事例では、「養育機関・教育機関」が16例(37.2%)、「市町村保健センター」が11例(25.6%)であった。

表 5 - 1 0 児童相談所以外の関係機関の関与

区分	心中以外				心中(未遂を含む)			
	上段:例数 下段:構成割合 / 64例				上段:例数 下段:構成割合 / 43例			
	関 与 な し	関与あり		不 明	関 与 な し	関与あり		不 明
虐待の 認識なし		虐待の 認識あり	虐待の 認識なし			虐待の 認識あり		
福祉事務所	54	4	3	3	32	7	0	4
	84.4%	6.3%	4.7%	4.7%	74.4%	16.3%	0.0%	9.3%
家庭児童相談室	60	0	1	3	37	2	0	4
	93.8%	0.0%	1.6%	4.7%	86.0%	4.7%	0.0%	9.3%
児童委員	57	0	0	7	32	2	0	9
	89.1%	0.0%	0.0%	10.9%	74.4%	4.7%	0.0%	20.9%
保健所	54	3	3	4	37	2	0	4
	84.4%	4.7%	4.7%	6.3%	86.0%	4.7%	0.0%	9.3%
市町村の母子保健担当部署	43	13	2	6	28	11	0	4
	67.2%	20.3%	3.1%	9.4%	65.1%	25.6%	0.0%	9.3%
養育機関・教育機関	49	7	4	4	20	16	0	7
	76.6%	10.9%	6.3%	6.3%	46.5%	37.2%	0.0%	16.3%
医療機関	25	17	6	16	20	6	0	17
	39.1%	26.6%	9.4%	25.0%	46.5%	14.0%	0.0%	39.5%
助産師	47	1	0	16	28	1	0	14
	73.4%	1.6%	0.0%	25.0%	65.1%	2.3%	0.0%	32.6%
警察	52	2	0	10	35	0	0	8
	81.3%	3.1%	0.0%	15.6%	81.4%	0.0%	0.0%	18.6%

6) 子どもを守る地域ネットワーク(要保護児童対策地域協議会)

- 子どもを守る地域ネットワーク(要保護児童対策地域協議会)等の有無は、死亡事例が発生した地域において、「あり」が心中以外の事例で 57 例(89.1%)、心中事例で 42 例(97.7%)であった。

表 6 - 1 子どもを守る地域ネットワーク(要保護児童対策地域協議会)等の有無

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
あり	57	89.1%	42	97.7%
なし	7	10.9%	1	2.3%
計	64	100%	43	100%

- 子どもを守る地域ネットワーク(要保護児童対策地域協議会)に参加している機関(複数回答)は、「児童相談所」、「市町村担当課」、「福祉事務所」、「保育所」、「幼稚園」、「小学校」、「中学校」、「児童委員」、「警察」、「教育委員会」は参加している率が高い傾向にあった。

表6-2 子どもを守る地域ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）に参加している機関（複数回答）

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合 ／57例	例数	構成割合 ／42例
児童相談所	56	98.2%	41	97.6%
市町村担当課	53	93.0%	41	97.6%
福祉事務所	54	94.7%	38	90.5%
児童家庭支援センター	14	24.6%	13	31.0%
保健所	49	86.0%	35	83.3%
保健センター	42	73.7%	34	81.0%
医療機関	49	86.0%	33	78.6%
保育所	54	94.7%	39	92.9%
認可外保育施設	4	7.0%	5	11.9%
幼稚園	53	93.0%	33	78.6%
小学校	53	93.0%	38	90.5%
中学校	53	93.0%	38	90.5%
高等学校	7	12.3%	6	14.3%
児童委員	55	96.5%	36	85.7%
警察	57	100%	39	92.9%
裁判所	6	10.5%	4	9.5%
弁護士	22	38.6%	12	28.6%
民間団体	22	38.6%	19	45.2%
教育委員会	53	93.0%	39	92.9%
児童館	14	24.6%	13	31.0%
児童養護施設などの児童福祉施設	27	47.4%	17	40.5%
社会福祉協議会	25	43.9%	23	54.8%
婦人相談所	4	7.0%	8	19.0%
配偶者暴力相談支援センター	4	7.0%	4	9.5%
婦人保護施設	3	5.3%	3	7.1%
その他	20	35.1%	19	45.2%

- 子どもを守る地域ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）の一般的な活用度は、心中以外の事例では、「よく活用した」が33例（57.9%）、「ある程度活用した」が22例（38.6%）、「ほとんど活用しなかった」が2例（3.5%）であった。
 心中事例では、「よく活用した」が21例（50.0%）、「ある程度活用した」が18例（42.9%）、「あまり活用しなかった」が3例（7.1%）であった。

表6-3 子どもを守る地域ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）の一般的な活用度

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
よく活用した	33	57.9%	21	50.0%
ある程度活用した	22	38.6%	18	42.9%
あまり活用しなかった	0	0.0%	3	7.1%
ほとんど活用しなかった	2	3.5%	0	0.0%
計	57	100%	42	100%

- 子どもを守る地域ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）における本事例についての検討の有無は、心中以外の事例では2例（3.5%）、心中以外の事例では1例（2.4%）であった。

表6-4 子どもを守る地域ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）における本事例についての検討の有無

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
あり	2	3.5%	1	2.4%
なし	55	96.5%	41	97.6%
計	57	100%	42	100%

7) 死亡後の対応

- 死亡情報の入手先（複数回答）は、心中以外の事例では、「報道」が42例（65.6%）と最も多く、次いで「警察」が20例（31.3%）、「医療機関」が14例（21.9%）であった。

心中事例では、「報道」が40例（93.0%）であった。

表7-1 死亡情報の入手先（複数回答）

区分	心中以外(64例)		心中(未遂を含む)(43例)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
医療機関	14	21.9%	2	4.7%
警察	20	31.3%	15	34.9%
報道	42	65.6%	40	93.0%
家族	11	17.2%	2	4.7%
その他	12	18.8%	9	20.9%

- 行政機関内部による事例についての検証の実施は、心中以外の事例では17例（26.6%）で、心中事例では8例（18.6%）で実施していた。

表7-2 行政機関内部による該当事例についての検証の実施

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
実施した	17	26.6%	8	18.6%
実施していない	47	73.4%	34	79.1%
実施中	0	0.0%	1	2.3%
計	64	100%	43	100%

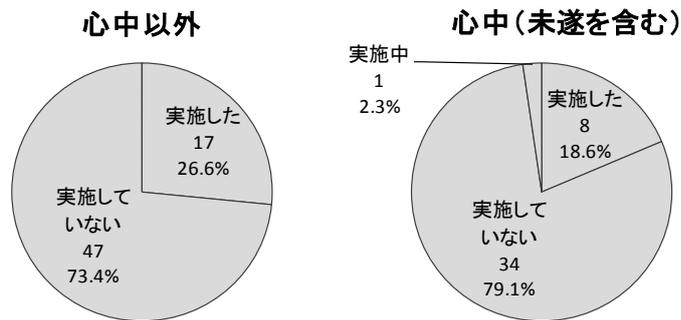


図 7-2 行政機関内部による本事例についての検証の実施

- 行政機関内部による検証における検証チームの構成（複数回答）は、心中以外の事例では、検証を実施した 17 例のうち、「児童相談所」が 16 例（94.1%）、「市町村」が 11 例（64.7%）であった。

心中事例では、検証を実施しないし実施中の 9 事例のうち、「市町村」が 9 事例（100%）、「児童相談所」が 6 例（66.7%）であった。

表 7-3 行政機関内部による検証における検証チームの構成（複数回答）

区分	心中以外(17例)		心中(未遂を含む)(9例)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
児童相談所	16	94.1%	6	66.7%
市町村	11	64.7%	9	100%
都道府県・指定都市、児童相談所設置市(本庁)	5	29.4%	5	55.6%
その他の機関	7	41.2%	4	44.4%

- 事例についての第三者による検証の実施は、心中以外の事例では 12 例（18.8%）で、心中事例では 3 例（7.0%）で実施していた。検証の実施中は、心中以外的事例で 6 例（9.4%）、心中事例で 1 例（2.3%）であった。

表 7-4 該当事例についての第三者による検証の実施

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
実施した	12	18.8%	3	7.0%
実施していない	46	71.9%	39	90.7%
実施中	6	9.4%	1	2.3%
計	64	100%	43	100%

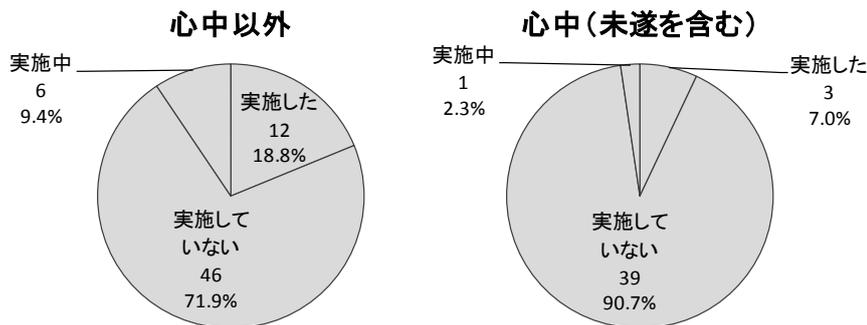


図7-4 該当事例についての第三者による検証の実施

- 本事例に関し、危機感を持つべきだったと思われる時期は、判明しているものと、心中以外の事例では、「死亡前1週間未満」が23例（41.1%）と最も多く、次いで「死亡前半年以上」が14例（25.0%）、「死亡前1週間～1か月未満」と「死亡前1か月～3か月未満」がそれぞれ8例（14.3%）であった。
- 心中事例では、「死亡前1週間未満」が14例（36.8%）で最も多く、次いで「死亡前半年以上」が9例（23.7%）であった。

表7-5 本事例に関し、危機感を持つべきだったと思われる時期

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
死亡前1週間未満	23	35.9%	41.1%	14	32.6%	36.8%
死亡前1週間～1か月未満	8	12.5%	14.3%	4	9.3%	10.5%
死亡前1か月～3か月未満	8	12.5%	14.3%	5	11.6%	13.2%
死亡前3か月～半年未満	3	4.7%	5.4%	6	14.0%	15.8%
死亡前半年以上	14	21.9%	25.0%	9	20.9%	23.7%
小計	56	87.5%	100%	38	88.4%	100%
不明・未記入	8	12.5%		5	11.6%	
計	64	100%		43	100%	

8) 残されたきょうだいについて

- 死亡事例全体（107例）のうち、同居しているか否かに関わらずきょうだいの状況を判明しているものと、「ない（ひとりっ子）」が39例（39.0%）であった。「1人（2人きょうだい）」は26例（26.0%）、「2人（3人きょうだい）」が20例（20.0%）、「3人（4人きょうだい）」が8例（8.0%）、「4人（5人きょうだい）」が3例（3.0%）、「5人（6人きょうだい）」が4例（4.0%）であった。

表8-1 きょうだいについて

区分	例数	構成割合	有効割合
なし(ひとりっ子)	39	36.4%	39.0%
1人(2人きょうだい)	26	24.3%	26.0%
2人(3人きょうだい)	20	18.7%	20.0%
3人(4人きょうだい)	8	7.5%	8.0%
4人(5人きょうだい)	3	2.8%	3.0%
5人(6人きょうだい)	4	3.7%	4.0%
小計	100	93.5%	100%
不明	7	6.5%	
計	107	100%	

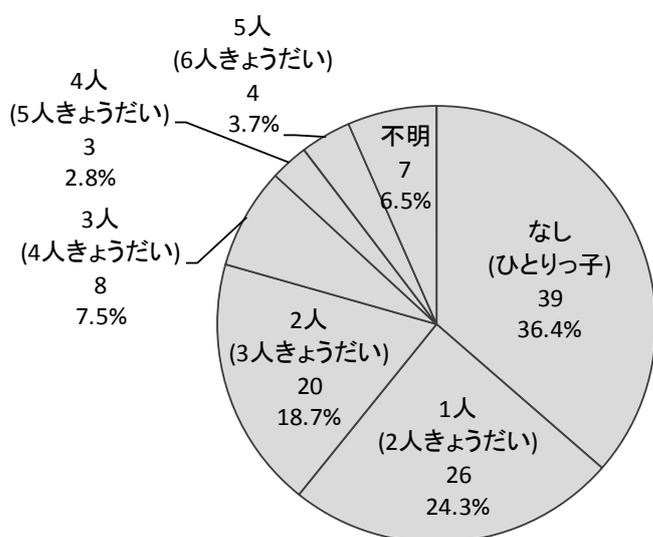


図8-1 きょうだいについて

- 残されたきょうだいの性別は、きょうだいの総数(本人を除く)122人のうち生存している90人をみると、心中以外の事例は、男女とも同数で38人(50.0%)であった。心中事例では、男女とも同数で7人(50.0%)であった。

表8-2 残されたきょうだいの性別

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	人数	構成割合	人数	構成割合
男	38	50.0%	7	50.0%
女	38	50.0%	7	50.0%
計	76	100%	14	100%

- 残されたきょうだいの年齢は、心中以外の事例では、「0歳」が9人(11.8%)、「6歳」が8人(10.5%)、「13歳」が7人(9.2%)であった。

表8-3 残されたきょうだいの年齢

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	人数	構成割合	人数	構成割合
0歳	9	11.8%	0	0.0%
1歳	5	6.6%	0	0.0%
2歳	5	6.6%	0	0.0%
3歳	5	6.6%	0	0.0%
4歳	5	6.6%	0	0.0%
5歳	5	6.6%	1	7.1%
6歳	8	10.5%	0	0.0%
7歳	5	6.6%	2	14.3%
8歳	1	1.3%	1	7.1%
9歳	3	3.9%	1	7.1%
10歳	3	3.9%	1	7.1%
11歳	0	0.0%	0	0.0%
12歳	2	2.6%	0	0.0%
13歳	4	5.3%	1	7.1%
14歳	7	9.2%	3	21.4%
15歳	0	0.0%	0	0.0%
16歳	4	5.3%	0	0.0%
17歳	1	1.3%	0	0.0%
18歳	0	0.0%	1	7.1%
19歳	0	0.0%	1	7.1%
20歳以上	4	5.3%	2	14.3%
計	76	100%	14	100%

- 本児死亡時の残されたきょうだいの同居は、判明しているものでみると、同居「あり」が、心中以外の事例では42人(58.3%)、心中事例では13人(92.9%)であった。

表8-4 本児死亡時の残されたきょうだいの同居

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
あり	42	55.3%	58.3%	13	92.9%	92.9%
なし	30	39.5%	41.6%	1	7.1%	7.1%
小計	72	94.7%	100%	14	100%	100%
不明	4	5.3%		0	0.0%	
計	76	100%		14	100%	

- 残されたきょうだいの養育機関・教育機関等の所属は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、「なし」が21人(29.2%)、「小学校」が18人(25.0%)、「保育所」

が16人(22.2%)であった。

心中事例では、「小学校」が5人(50.0%)、「中学校」が4人(40.0%)であった。

表8-5 残されたきょうだいの養育機関・教育機関等の所属

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
なし	21	27.6%	29.2%	0	0.0%	0.0%
保育所	16	21.1%	22.2%	0	0.0%	0.0%
幼稚園	1	1.3%	1.4%	1	7.1%	10.0%
小学校	18	23.7%	25.0%	5	35.7%	50.0%
中学校	11	14.5%	15.3%	4	28.6%	40.0%
高等学校	4	5.3%	5.6%	0	0.0%	0.0%
大学	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
その他	1	1.3%	1.4%	0	0.0%	0.0%
小計	72	94.7%	100%	10	0.0%	100%
不明	4	5.3%		4	28.6%	
計	76	100%		14	100%	

- 残されたきょうだいの虐待を受けた体験は、判明しているものでみると、体験「あり」が、心中以外の事例では14人(37.8%)、心中事例ではいなかった。

表8-6 残されたきょうだいの虐待を受けた体験

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
あり	14	18.4%	37.8%	0	0.0%	0.0%
なし	23	30.3%	62.2%	3	21.4%	100%
小計	37	48.7%	100%	3	21.4%	100%
不明	39	51.3%		11	78.6%	
計	76	100%		14	100%	

- 残されたきょうだいへの過去の児童相談所の関与は、過去に児童相談所の関与「あり」は、心中以外の事例では22人(28.9%)、心中以外の事例では1人(7.1%)であった。

表8-7 残されたきょうだいへの過去の児童相談所の関与

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	人数	構成割合	人数	構成割合
あり	22	28.9%	1	7.1%
なし	54	71.1%	13	92.9%
計	76	100%	14	100%

- 残されたきょうだいへの過去の市町村の関与は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、過去の市町村の関与「あり」は19人(26.8%)、「なし」は52人(73.2%)

であった。

心中事例では、市町村の関与はなかった。

表8-8 残されたきょうだいへの市町村の関与

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
あり	19	25.0%	26.8%	0	0.0%	0.0%
なし	52	68.4%	73.2%	14	100%	100%
小計	71	93.4%	100%	14	100%	100%
不明	5	6.6%		0	0.0%	
計	76	100%		14	100%	

- 本児死亡時の残されたきょうだいへの対応は、心中以外の事例では、「あり」が25例(71.4%)であった。また、死亡時の対応があった25例の対応状況は、「安全確認」が20例(57.1%)、「親からの分離」が10例(28.6%)、「面接」が8例(22.9%)、「心理的ケア」が6例(17.1%)であった。しかし、対応なしも10例(28.6%)あった。

心中事例では、「あり」が5例(50.0%)であり、その対応状況は、「安全確認」が5例(50.0%)、心理的ケアが2例(20.0%)、「面接」が1例(10.0%)であった。

表8-9 残されたきょうだいに対する本児死亡時の対応(「対応内容」は複数回答)

区分	心中以外		心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合 ／35例	例数	構成割合 ／10例	
なし	10	28.6%	5	50.0%	
あり	25	71.4%	5	50.0%	
内訳(再掲) (複数回答)	安全確認	20	57.1%	5	50.0%
	面接	8	22.9%	1	10.0%
	親からの分離	10	28.6%	0	0.0%
	心理的ケア	6	17.1%	2	20.0%

- 残されたきょうだいの居所は、判明しているものとみると、心中以外の事例では、「自宅」が23人(33.8%)、「児童養護施設」が22人(32.4%)、「祖父母宅」が10人(14.7%)であった。

心中事例では、「自宅」が5人(45.5%)、「祖父母宅」が4人(36.4%)であった。

表8-10 残されたきょうだいの居所

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
自宅	23	30.3%	33.8%	5	35.7%	45.5%
祖父母宅	10	13.2%	14.7%	4	28.6%	36.4%
児童養護施設	22	28.9%	32.4%	0	0.0%	0.0%
その他	13	17.1%	19.1%	2	14.3%	18.2%
小計	68	89.5%	100%	11	78.6%	100%
不明	8	10.5%		3	21.4%	
計	76	100%		14	100%	

9) 3歳未満と3歳以上の比較

第5次報告と同様に、今回も心中以外の事例では、3歳未満の死亡が7割以上を占めていたため、心中以外の事例64例(67人)について、3歳未満と3歳以上で比較分析を行った。

- 性別は、判明しているものでみると、3歳未満では、男が22人(52.4%)、女が20人(47.6%)であり、3歳以上では、男が11人(57.9%)、女が8人(42.1%)で、いずれにおいても男の方が多かった。

表9-1 性別

区分	3歳未満			3歳以上	
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合
男	22	46.8%	52.4%	11	57.9%
女	20	42.6%	47.6%	8	42.1%
小計	42	89.4%	100%	19	100.0%
不明	5	10.6%		0	0.0%
計	47	100%		19	100%

<参考>平成15年7月から平成20年3月まで

区分	3歳未満			3歳以上		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
男	83	49.4%	49.7%	53	54.1%	54.6%
女	84	50.0%	50.3%	44	44.9%	45.4%
小計	167	99.4%	100%	97	99.0%	100%
不明	1	0.6%		1	1.0%	
計	168	100%		98	100%	

- 主たる虐待の種類は、判明しているものでみると、3歳未満では、「身体的虐待」が28人(73.7%)、「ネグレクト」が10人(26.3%)であった。3歳以上では、「身体的虐待」が15人(88.2%)、「ネグレクト」が2人(11.8%)であった。

表9-2-1 主たる虐待の種類

区分	3歳未満			3歳以上		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
身体的虐待	28	59.6%	73.7%	15	78.9%	88.2%
ネグレクト	10	21.3%	26.3%	2	10.5%	11.8%
小計	38	80.9%	100%	17	89.5%	100%
不明	9	19.1%		2	10.5%	
計	47	100%		19	100%	

<参考>平成15年7月から平成20年3月まで

区分	3歳未満			3歳以上		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
身体的虐待	116	69.0%	70.3%	74	75.5%	77.1%
ネグレクト	49	29.2%	29.7%	21	21.4%	21.9%
その他	0	0.0%	0.0%	1	1.0%	1.0%
小計	165	98.2%	100%	96	98.0%	100%
不明	3	1.8%		2	2.0%	
計	168	100%		98	100%	

- 確認された虐待の種類(複数回答)は、「身体的虐待」は、3歳未満では28人(59.6%)、3歳以上では15人(78.9%)、「ネグレクト」は、3歳未満では11人(23.4%)、3歳以上では5人(26.3%)、「心理的虐待」は、3歳未満では2人(4.3%)、3歳以上では4人(21.1%)であった。

表9-2-2 確認された虐待の種類(複数回答)

区分	3歳未満		3歳以上	
	人数	構成割合 /47人	人数	構成割合 /19人
身体的虐待	28	59.6%	15	78.9%
ネグレクト	11	23.4%	5	26.3%
心理的虐待	2	4.3%	4	21.1%

<参考>平成18年1月から平成20年3月まで

区分	3歳未満		3歳以上	
	人数	構成割合 /86人	人数	構成割合 /53人
身体的虐待	56	65.1%	37	69.8%
ネグレクト	38	44.2%	34	64.2%
心理的虐待	3	3.5%	7	13.2%

- 直接死因は、判明しているものでみると、3歳未満では、「溺水」が8人(24.2%)、「頭部外傷」と「頸部絞扼以外による窒息」がそれぞれ7人(21.2%)であった。3歳以上では、「頭部外傷」が7人(38.9%)、「頸部絞扼以外による窒息」が4人(22.5%)であった。

表 9 - 3 直接死因

区分	3歳未満			3歳以上			
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	
頭部外傷	7	14.9%	21.2%	7	36.8%	38.9%	
腹部外傷	2	4.3%	6.1%	1	5.3%	5.6%	
頸部絞扼による窒息	1	2.1%	3.0%	4	21.1%	22.2%	
頸部絞扼以外による窒息	7	14.9%	21.2%	0	0.0%	0.0%	
溺水	8	17.0%	24.2%	1	5.3%	5.6%	
出血性ショック	2	4.3%	6.1%	0	0.0%	0.0%	
低栄養による衰弱	1	2.1%	3.0%	0	0.0%	0.0%	
火災による熱傷・一酸化炭素中毒	1	2.1%	3.0%	2	10.5%	11.1%	
病死	2	4.3%	6.1%	1	5.3%	5.6%	
その他	2	4.3%	6.1%	2	10.5%	11.1%	
内訳 (再掲)	プラスチック製ゴミ箱に入れて ふたをし放置、窒息死	1	2.1%	3.0%	0	0.0%	0.0%
	焼死	0	0.0%	0.0%	2	10.5%	11.1%
	頭部打撲による脳障害	1	2.1%	3.0%	0	0.0%	0.0%
小計	33	70.2%	100%	18	94.7%	100%	
不明	14	29.8%		1	5.3%		
計	47	100%		19	26%		

<参考>平成18年1月から平成20年3月まで

区分	3歳未満			3歳以上			
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	
頭部外傷	18	20.9%	24.7%	11	20.8%	21.2%	
腹部外傷	2	2.3%	2.7%	2	3.8%	3.8%	
外傷性ショック	2	2.3%	2.7%	1	1.9%	1.9%	
頸部絞扼による窒息	5	5.8%	6.8%	10	18.9%	19.2%	
頸部絞扼以外による窒息	17	19.8%	23.3%	3	5.7%	5.8%	
溺水	6	7.0%	8.2%	2	3.8%	3.8%	
熱傷	2	2.3%	2.7%	0	0.0%	0.0%	
車内放置による熱中症・脱水	4	4.7%	5.5%	0	0.0%	0.0%	
低栄養による衰弱	4	4.7%	5.5%	4	7.5%	7.7%	
凍死	1	1.2%	1.4%	0	0.0%	0.0%	
火災による熱傷・一酸化炭素中毒	7	8.1%	9.6%	13	24.5%	25.0%	
病死	1	1.2%	1.4%	1	1.9%	1.9%	
その他	4	4.7%	5.5%	5	9.4%	9.6%	
内訳(再掲)	結腸壊死	0	0.0%	0.0%	1	1.9%	1.9%
	頸部外傷	1	1.2%	1.4%	0	0.0%	0.0%
	頭部顔面を含む全身打撲	0	0.0%	0.0%	1	1.9%	1.9%
	高所から投げ落とす	1	1.2%	1.4%	0	0.0%	0.0%
	急性硬膜下血腫	0	0.0%	0.0%	1	1.9%	1.9%
	低酸素脳症	0	0.0%	0.0%	1	1.9%	1.9%
	揺さぶられ症候群による頭蓋 内出血	1	1.2%	1.4%	0	0.0%	0.0%
	低体温症	0	0.0%	0.0%	1	1.9%	1.9%
	トイレで出産後遺棄	1	1.2%	1.4%	0	0.0%	0.0%
	小計	73	84.9%	100%	52	98.1%	100%
不明	13	15.1%		1	1.9%		
計	86	100%		53	100%		

- 主たる加害者は、判明しているものでみると、「実母」は、3歳未満では26人(63.4%)、3歳以上では10人(52.6%)であった。「実父」は、3歳未満では8人(19.5%)、3歳以上では2人(10.5%)であった。また、「実父母」は、3歳未満では5人(12.2%)であった。

表9-4 主たる加害者

区分	3歳未満			3歳以上			
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	
実母	26	55.3%	63.4%	10	52.6%	52.6%	
実父	8	17.0%	19.5%	2	10.5%	10.5%	
養母	0	0.0%	0.0%	1	5.3%	5.3%	
母の交際相手	1	2.1%	2.4%	1	5.3%	5.3%	
父方祖父	0	0.0%	0.0%	1	5.3%	5.3%	
実母と	実父	5	10.6%	12.2%	0	0.0%	0.0%
	養父	1	2.1%	2.4%	1	5.3%	5.3%
	母の交際相手	0	0.0%	0.0%	3	15.8%	15.8%
小計	41	87.2%	100%	19	100%	100%	
不明	6	12.8%		0	0.0%		
計	47	100%		19	100%		

<参考>平成15年7月から平成20年3月まで

区分	3歳未満			3歳以上			
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	
実母	94	56.0%	57.0%	47	48.0%	49.0%	
実父	41	24.4%	24.8%	9	9.2%	9.4%	
継母	0	0.0%	0.0%	3	3.1%	3.1%	
継父	0	0.0%	0.0%	4	4.1%	4.2%	
養母	0	0.0%	0.0%	1	1.0%	1.0%	
養夫	1	0.6%	0.6%	1	1.0%	1.0%	
母方祖母	2	1.2%	1.2%	1	1.0%	1.0%	
母の交際相手	10	6.0%	6.1%	10	10.2%	10.4%	
実母と	実父	12	7.1%	7.3%	7	7.1%	7.3%
	母の交際相手	0	0.0%	0.0%	5	5.1%	5.2%
	養父	1	0.6%	0.6%	1	1.0%	1.0%
	その他	1	0.6%	0.6%	2	2.0%	2.1%
その他	3	1.8%	1.8%	5	5.1%	5.2%	
小計	165	98.2%	100%	96	98%	100%	
不明	3	1.8%		2	2.0%		
計	168	100%		98	100%		

- 加害の動機は、判明しているものでみると、3歳未満では、「子どもの存在の拒否・否定」が8人(29.6%)と最も多く、次いで「泣きやまないことにいらだったため」が5人(18.5%)であった。3歳以上では、「しつけのつもり」が8人(50.0%)であった。

表 9-5 加害の動機

区分	3歳未満			3歳以上		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
しつけのつもり	1	2.1%	3.7%	8	42.1%	50.0%
子どもがなつかない	1	2.1%	3.7%	0	0.0%	0.0%
パートナーへの愛情を独占されたなど、 子供に対する嫉妬心	1	2.1%	3.7%	0	0.0%	0.0%
精神症状による行為(妄想などによる)	0	0.0%	0.0%	2	10.5%	12.5%
MSBP(ミュンヒハウゼン氏症候群)	2	4.3%	7.4%	1	5.3%	6.3%
保護を怠ったことによる死亡	2	4.3%	7.4%	2	10.5%	12.5%
子どもの存在の拒否・否定	8	17.0%	29.6%	0	0.0%	0.0%
泣きやまないことにいらだったため	5	10.6%	18.5%	0	0.0%	0.0%
その他	7	14.9%	25.9%	3	15.8%	18.8%
小計	27	57.4%	100%	16	84.2%	100%
不明	20	42.6%		3	15.8%	
計	47	100%		19	100%	

<参考>平成18年1月から平成20年3月まで

区分	3歳未満			3歳以上		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
しつけのつもり	3	3.5%	5.1%	13	24.5%	33.3%
子どもがなつかない	2	2.3%	3.4%	1	1.9%	2.6%
パートナーへの愛情を独占されたなど、 子供に対する嫉妬心	1	1.2%	1.7%	1	1.9%	2.6%
慢性の疾患や障害の苦しみから子どもを 救おうという主観的意図	1	1.2%	1.7%	3	5.7%	7.7%
精神症状による行為(妄想などによる)	7	8.1%	11.9%	4	7.5%	10.3%
保護を怠ったことによる死亡	18	20.9%	30.5%	13	24.5%	33.3%
子どもの存在の拒否・否定	10	11.6%	16.9%	1	1.9%	2.6%
泣きやまないことにはらだったため	15	17.4%	25.4%	2	3.8%	5.1%
その他	2	2.3%	3.4%	1	1.9%	2.6%
小計	59	68.6%	100%	39	73.6%	100%
不明	27	31.4%		14	26.4%	
計	86	100%		53	100%	

- 虐待通告は、判明しているものと、3歳未満では、虐待通告「あり」は3例(6.7%)であり、通告先は「児童相談所」が2例(4.4%)、「福祉事務所」が1例(2.2%)であった。3歳以上では、虐待通告「あり」が4例(23.5%)であり、通告先は「児童相談所」が3例(17.6%)、「市町村」が1例(5.9%)であった。

表9-6 虐待通告の有無

区分	3歳未満			3歳以上			
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	
なし	42	91.3%	93.3%	13	76.5%	76.5%	
あり	3	6.5%	6.7%	4	23.5%	23.5%	
内訳(再掲)	児童相談所	2	4.3%	4.4%	3	17.6%	17.6%
	市町村	0	0.0%	0.0%	1	5.9%	5.9%
	福祉事務所	1	2.2%	2.2%	0	0.0%	0.0%
小計	45	97.8%	100%	17	100%	100%	
不明	1	2.2%		0	0.0%		
計	46	100%		17	100%		

<参考>平成19年1月から平成20年3月まで

区分	3歳未満		3歳以上		
	例数	構成割合	例数	構成割合	
なし	44	86.3%	14	63.6%	
あり	7	13.7%	8	36.4%	
内訳(再掲)	児童相談所	1	2.0%	6	27.3%
	市町村	5	9.8%	2	9.1%
	その他	1	2.0%	0	0.0%
計	51	100%	22	100%	

- 児童相談所の関与は、判明しているものでみると、関与「あり」は、3歳未満で2例(4.4%)、3歳以上で5例(29.4%)であった。一方、市町村の関与は、判明しているものでみると、関与「あり」は、3歳未満で1例(2.2%)、3歳以上で2例(11.8%)であった。

表9-7 児童相談所の関与

区分	3歳未満			3歳以上		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
あり	2	4.3%	4.4%	5	29.4%	29.4%
なし	43	93.5%	95.6%	12	70.6%	70.6%
小計	45	97.8%	100%	17	100%	100%
不明	1	2.2%		0	0.0%	
計	46	100%		17	100%	

<参考>平成19年1月から平成20年3月まで

区分	3歳未満		3歳以上	
	例数	構成割合	例数	構成割合
あり	7	13.7%	8	36.4%
なし	44	86.3%	14	63.6%
計	51	100%	22	100%

表9-8 市町村の関与

区分	3歳未満			3歳以上		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
あり	1	2.2%	2.2%	2	11.8%	11.8%
なし	44	95.7%	97.8%	15	88.2%	88.2%
小計	45	97.8%	100%	17	100%	100%
不明	1	2.2%		0	0.0%	
計	46	100%		17	100%	

<参考>平成19年1月から平成20年3月まで

区分	3歳未満			3歳以上	
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合
あり	8	15.7%	17.0%	7	31.8%
なし	39	76.5%	83.0%	15	68.2%
小計	47	92.2%	100%	22	100%
不明	4	7.8%		0	0.0%
計	51	100%		11	100%

- 虐待の認識の有無に関わらず、児童相談所を含む関係機関の関与状況を判明しているものでみると、「いずれか関与あり」は、3歳未満で21例（63.6%）、3歳以上で13例（86.7%）であった。「全く関与なし」は、3歳未満で12例（36.4%）、3歳以上で2例（13.3%）であった。

表9-9 児童相談所を含む関係機関の関与状況

区分	3歳未満			3歳以上		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
いずれかの関与あり	21	45.7%	63.6%	13	76.5%	86.7%
全く関与なし	12	26.1%	36.4%	2	11.8%	13.3%
小計	33	71.7%	100%	15	88.2%	100%
不明	13	28.3%		2	11.8%	
計	46	100%		17	100%	

<参考>平成18年1月から平成20年3月まで

区分	3歳未満			3歳以上		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
いずれかの関与あり	49	59.0%	75.4%	42	82.4%	93.3%
全く関与なし	16	19.3%	24.6%	3	5.9%	6.7%
小計	65	78.3%	100%	45	88.2%	100%
不明	18	21.7%		6	11.8%	
計	83	100%		51	100%	

- 死亡後の残されたきょうだいへの対応状況は、3歳未満では、対応「あり」は17例（68.0%）であり、対応内容は、「安全確認」が13例（76.5%）、「親からの分離」が6例（35.3%）、「面接」が4例（23.5%）、「心理的ケア」が3例（17.6%）であった。
3歳以上では、対応「あり」は7例（77.8%）であり、対応内容は「安全確認」が6例（85.7%）、「面接」と「親からの分離」が3例（42.9%）、「心理的ケア」が2例（28.6%）であった。

表9-10 死亡後の残されたきょうだいへの対応状況

区分		3歳未満		3歳以上	
		例数	構成割合	例数	構成割合
なし		8	32.0%	2	22.2%
あり		17	68.0%	7	77.8%
対応内容 (複数回答)	安全確認	13	76.5%	6	85.7%
	面接	4	23.5%	3	42.9%
	親からの分離	6	35.3%	3	42.9%
	心理的ケア	3	17.6%	2	28.6%
計		25	98%	9	100%

<参考>平成19年1月から平成20年3月まで

区分		3歳未満			3歳以上	
		例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合
なし		7	26.9%	28.0%	3	27.3%
あり		18	69.2%	72.0%	8	72.7%
対応内容 (複数回答)	安全確認	15	57.7%	60.0%	7	63.6%
	面接	10	38.5%	40.0%	4	36.4%
	親からの分離	9	34.6%	36.0%	5	45.5%
	心理的ケア	5	19.2%	20.0%	8	72.7%
小計		25	96.2%	100%	11	100%
不明		1	3.8%		0	0.0%
計		26	100%		11	100%

10) 0歳児の死亡について

ここでは、0歳児の死亡事例の実態を明らかにするために、0歳児の死亡例46人について検討する。

- 0歳児の死亡事例は、心中以外の事例では39人で、心中事例では7人であった。0歳児を月齢別にみると、心中以外の事例は、0か月が26人(66.7%)、1か月が1人(2.6%)、2か月が2人(5.1%)で、3か月未満が74.4%を占めていた。

表10-1 0歳児月齢別

区分	平成19年1月から平成20年3月						平成20年4月から平成21年3月					
	心中以外			心中(未遂を含む)			心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	累積構成割合	人数	構成割合	累積構成割合	人数	構成割合	累積構成割合	人数	構成割合	累積構成割合
0か月	17	45.9%	45.9%	1	11.1%	11.1%	26	66.7%	66.7%	0	0.0%	0.0%
1か月	1	2.7%	48.6%	2	22.2%	33.3%	1	2.6%	69.2%	0	0.0%	0.0%
2か月	5	13.5%	62.2%	0	0.0%	33.3%	2	5.1%	74.4%	0	0.0%	0.0%
3か月	3	8.1%	70.3%	1	11.1%	44.4%	0	0.0%	74.4%	1	14.3%	14.3%
4か月	1	2.7%	73.0%	1	11.1%	55.6%	1	2.6%	76.9%	0	0.0%	14.3%
5か月	4	10.8%	83.8%	0	0.0%	55.6%	0	0.0%	76.9%	1	14.3%	28.6%
6か月	1	2.7%	86.5%	0	0.0%	55.6%	2	5.1%	82.1%	2	28.6%	57.1%
7か月	2	5.4%	91.9%	1	11.1%	67%	2	5.1%	87.2%	3	42.9%	100%
8か月	0	0.0%	91.9%	1	11.1%	77.8%	1	2.6%	89.7%	0	0.0%	
9か月	2	5.4%	97.3%	1	11.1%	88.9%	2	5.1%	94.9%	0	0.0%	
10か月	1	2.7%	100%	0	0.0%	88.9%	0	0.0%	94.9%	0	0.0%	
11か月	0	0.0%		1	11.1%	100%	0	0.0%	94.9%	0	0.0%	
月齢不明	0	0.0%		0	0.0%		2	5.1%	100%	0	0.0%	
計	37	100%		9	100%		39	100%		7	100%	

<参考>平成15年7月から平成20年3月まで

区分	平成15年7月から平成20年3月					
	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	累積構成割合	人数	構成割合	累積構成割合
0か月	44	39.6%	39.6%	2	8.7%	8.7%
1か月	5	4.5%	44.1%	4	17.4%	26.1%
2か月	15	13.5%	57.7%	0	0.0%	26.1%
3か月	7	6.3%	64.0%	3	13.0%	39.1%
4か月	8	7.2%	71.2%	3	13.0%	52.2%
5か月	6	5.4%	76.6%	1	4.3%	56.5%
6か月	6	5.4%	82.0%	0	0.0%	56.5%
7か月	4	3.6%	85.6%	1	4.3%	61%
8か月	2	1.8%	87.4%	2	8.7%	69.6%
9か月	4	3.6%	91.0%	2	8.7%	78.3%
10か月	6	5.4%	96%	1	4.3%	82.6%
11か月	1	0.9%	97.3%	4	17.4%	100%
月齢不明	3	2.7%	100%	0	0.0%	
計	111	100%		23	100%	

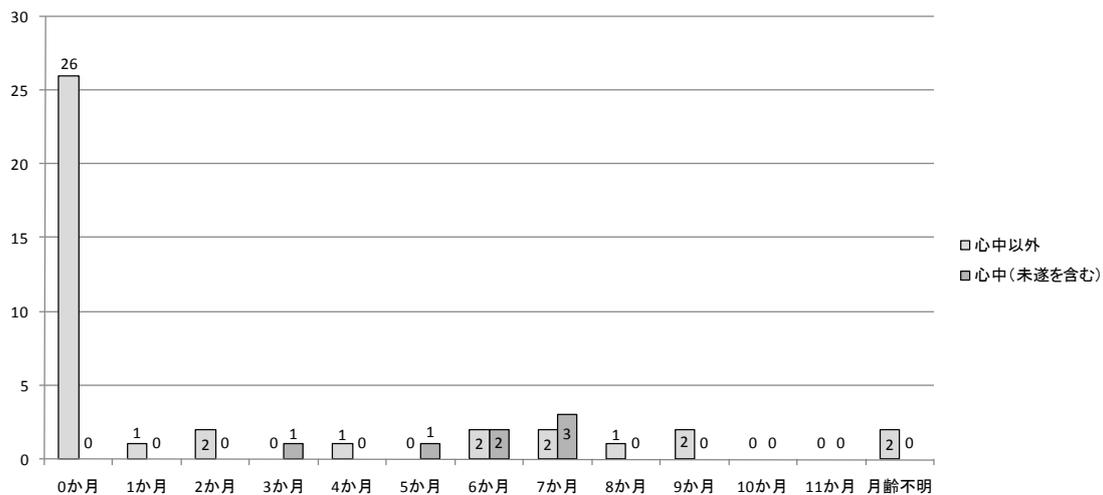


図10-1 0歳児月齢別

- 加害者は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、「実母」が22人(64.7%)と最も多く、「実父」が7人(20.6%)、「実父母」が4人(10.3%)であった。
 心中事例では、「実母」が4人(66.7%)であった。

表10-2 加害者

区分	心中以外			心中(未遂を含む)			
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	
実母	22	56.4%	64.7%	4	57.1%	66.7%	
実父	7	17.9%	20.6%	1	14.3%	16.7%	
母方祖父	0	0.0%	0.0%	1	14.3%	16.7%	
実母	実父	4	10.3%	11.8%	0	0.0%	0.0%
	養父	1	2.6%	2.9%	0	0.0%	0.0%
小計	34	87.2%	100%	6	85.7%	100%	
不明	5	12.8%		1	14.3%		
計	39	100%		7	100%		

<参考>平成19年1月から平成20年3月まで

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
実母	20	55.6%	6	100%
実父	10	27.8%	0	0.0%
母方祖母	1	2.8%	0	0.0%
実母と実父	5	13.9%	0	0.0%
計	36	100%	6	100%

- 養育者の状況は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、「実父母」が 15 人 (42.9%) と最も多く、次いで「一人親 (未婚)」が 11 人 (31.4%)、「内縁関係」が 4 人 (11.4%)、「一人親 (離婚)」が 3 人 (8.6%) であった。

心中事例では、「実父母」が 4 人 (80.0%) であった。

表 10-3 養育者の状況

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
実父母	15	38.5%	42.9%	4	57.1%	80.0%
一人親(離婚)	3	7.7%	8.6%	0	0.0%	0.0%
一人親(未婚)	11	28.2%	31.4%	0	0.0%	0.0%
内縁関係	4	10.3%	11.4%	0	0.0%	0.0%
その他	2	5.1%	5.7%	1	14.3%	20.0%
小計	35	89.7%	100%	5	71.4%	100%
不明	4	10.3%		2	28.6%	
計	39	100%		7	100%	

<参考>平成18年1月から平成20年3月まで

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
実父母	30	55.6%	69.8%	8	61.5%	100.0%
一人親(離婚)	3	5.6%	7.0%	0	0.0%	0.0%
一人親(未婚)	9	16.7%	20.9%	0	0.0%	0.0%
内縁関係	1	1.9%	2.3%	0	0.0%	0.0%
小計	43	79.6%	100%	8	61.5%	100%
不明	11	20.4%		5	38.5%	
計	54	100%		13	100%	

- 本児死亡時の実母・実父の年齢は、判明しているものでみると、心中以外の事例では、実母は「35歳～39歳」で9人(23.7%)、「25歳～29歳」で8人(21.1%)、「20歳～24歳」で7人(18.4%)であった。実父は「20歳～24歳」で5人(17.2%)であった。

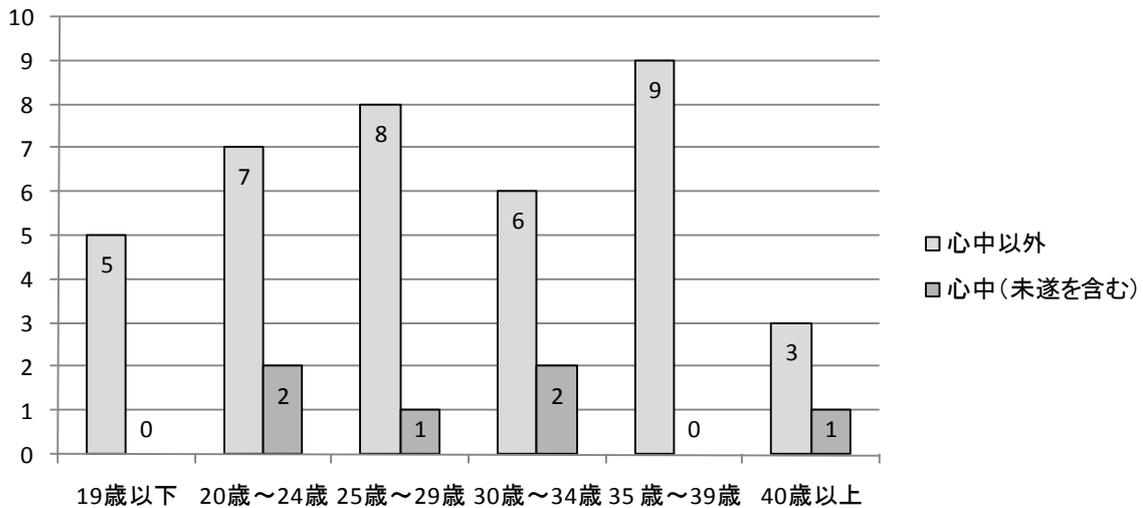
心中事例では、実母は「20歳～24歳」と「30歳～34歳」でそれぞれ2人(33.3%)、実父は「25歳～29歳」で2人(33.3%)であった。

表10-4 本児死亡時の実母・実父の年齢

区分	心中以外						心中(未遂を含む)					
	実母			実父			実母			実父		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
いない	0	0.0%	0.0%	11	28.2%	37.9%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
いる	38	97.4%	100%	18	46.2%	62.1%	6	85.7%	100%	6	85.7%	100%
内訳												
19歳以下	5	12.8%	13.2%	1	2.6%	3.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
(再掲) 20歳~24歳	7	17.9%	18.4%	5	12.8%	17.2%	2	28.6%	33.3%	1	14.3%	16.7%
25歳~29歳	8	20.5%	21.1%	3	7.7%	10.3%	1	14.3%	16.7%	2	28.6%	33.3%
30歳~34歳	6	15.4%	15.8%	3	7.7%	10.3%	2	28.6%	33.3%	1	14.3%	16.7%
35歳~39歳	9	23.1%	23.7%	1	2.6%	3.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
40歳以上	3	7.7%	7.9%	5	12.8%	17.2%	1	14.3%	16.7%	2	28.6%	33.3%
小計	38	97.4%	100%	29	74.4%	100%	6	85.7%	100%	6	85.7%	100%
不明	1	2.6%		10	25.6%		1	14.3%		1	14.3%	
計	39	100%		39	100%		7	100%		7	100%	

<参考>平成18年1月から平成20年3月まで

区分	心中以外						心中(未遂を含む)		
	実母			実父			実母		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
19歳以下	11	22.4%	23.4%	3	7.1%	10.0%	0	0.0%	0.0%
20歳~24歳	9	18.4%	19.1%	5	11.9%	16.7%	0	0.0%	0.0%
25歳~29歳	6	12.2%	12.8%	8	19.0%	26.7%	6	46.2%	60.0%
30歳~34歳	10	20.4%	21.3%	5	11.9%	16.7%	3	23.1%	30.0%
35歳~39歳	7	14.3%	14.9%	7	16.7%	23.3%	1	7.7%	10.0%
40歳以上	4	8.2%	8.5%	2	4.8%	6.7%	0	0.0%	0.0%
小計	47	95.9%	100%	30	71.4%	100%	10	76.9%	100%
不明	2	4.1%		12	28.6%		3	23.1%	
計	49	100%		42	100%		13	100%	



※実母の有無不明例を除く(単位:人)

図10-4 本児死亡時の実母の年齢